



PODXT

Ultimate Tone for Guitar

取扱説明書



株式会社サウンドハウス
Professional Sound Equipment Specialist
〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958
TEL: 0476-22-9333 FAX: 0476-22-9334

NAVIGATION REFERENCE



- With EDIT, SAVE or TUNER is lit, "SELECT" selects pages
- Otherwise, "SELECT" chooses Channel Memory



- For Comp, Strng, Mod, and Delay, the effect is on when lit
- CAB/AIR is lit when you are using a cab simulation
- Double press an effect button to go straight to its EDIT page.



EDIT PAGES

1. Amp Settings
2. A.J.R. Settings
3. Compressor and Gate Settings
4. Stamp Select and Settings
5. Modulation Select and Settings
6. Modulation Settings (page 2)
7. Delay Select and Settings
8. Delay Settings (page 2)
9. Reverb Select and Settings
10. Wah and Volume Settings
11. FX Tweak and Tempo Settings



SAVE PAGES

1. Save Sound to Channel Memory
2. Custom Save Amp Model
3. Custom Save Effects Setup
4. Single Factory Channel recall
5. Factory Recall
6. MIDI Dump



TUNER PAGES

1. Tuner
2. What are you connecting to?
3. Display contrast
4. MIDI
5. PODr Software Version

AMP MODELS

#	AMP MODEL	MODEL BASED ON
0	... BYPASS	Bypasses the Amp Model
1	... TUBE PREAMP	TUBE INSTRUMENT PREAMP
2	... LINE 6 CLEAN	LINE 6 21st CENTURY CLEAN
3	... LINE 6 DS-1S	LINE 6 ORIGINAL
4	... LINE 6 CLASS A	LINE 6 ORIGINAL
5	... LINE 6 M300	LINE 6 ORIGINAL
6	... SPINAL PUPPET	LINE 6 ORIGINAL
7	... LINE 6 CHEER X	LINE 6 CHEER X X
8	... LINE 6 INSANE	WAY TOO MANY HOURS OF SPREADING
9	... LINE 6 AC02	LINE 6 PLEO ACOUSTIC 2
10	... ZEN MASTER	BUCCA TWIN MASTER 2-12 Cores
11	... SMALL TWEED	'58 FENDER DELUXE
12	... TWEED B.B.W.	'58 FENDER BASSMAN
13	... TINY TWEED	'60 TWEED FENDER CHAMP
14	... BLACKFACE L100	'64 FENDER DELUXE REVERB
15	... DOUBLE VIBS	'65 FENDER BLACKFACE TWIN
16	... TWO-TONE	GRETSCH 6156

#	AMP MODEL	MODEL BASED ON
17	... HIGHWAY 100	FRENCH CUSTOM 100
18	... PLEXI 45	'65 MARSHALL JTB-45
19	... PLEXI LEAD	'68 MARSHALL 'PLEXI' SUPER LEAD
20	... PLEXI JUMP LEAD	JURPEER MARSHALL SUPER LEAD
21	... PLEXI WARW	VARW20 MARSHALL SUPER LEAD
22	... BRN 1810	MARSHALL JCM 1810
23	... BRN 1815 PRE	MARSHALL JMP-1 PREAMP
24	... MATCH CHEF	'96 MATCHLESS CHEFTW
25	... MATCH D-30	MATCHLESS D-30
26	... RECTO GUM	2001 HESA BOODE GUM RECTIFIER
27	... CALL CRUNCH	'85 HESA BOODE MARK 1C+
28	... JAZZ CLEAN	'87 POLAND TC-120
29	... SOLO 100	SOLDANO SOLO 100 HEAD
30	... SUPER D	SUPRO SUPER D
31	... CLASS A-15	'60 VOX AC-15
32	... CLASS A-30 TB	'67 VOX AC-30 TOP BOOST

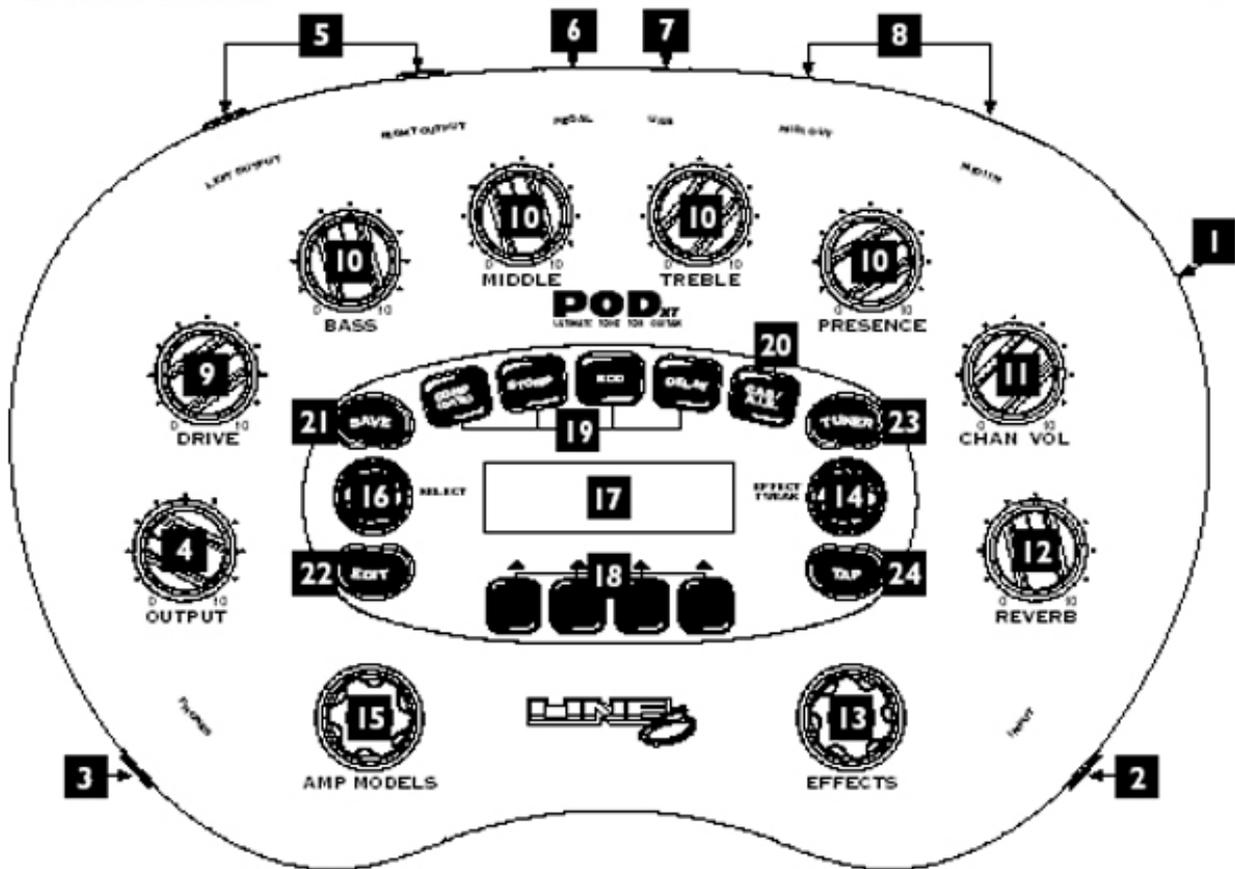
CABINET MODELS

#	CAB MODEL	MODEL BASED ON
0	... NO CAB	N/A
1	... 1X6 SUPER D	SUPRO SCOT 6
2	... 1X6 TWEED	'60 TWEED FENDER CHAMP
3	... 1X10 EXTONE	DISSON EXPLODER
4	... 1X10 B.B.W.	GRETSCH
5	... 1X12 UME 6	LINE 6 ORIGINAL
6	... 1X12 TWEED	'58 FENDER BELLLINE REVERB
7	... 1X12 BLACKFACE	'65 FENDER BELLLINE REVERB

#	AMP MODEL	MODEL BASED ON
8	... 1X12 CLASS A	VOX AC-15 W/ GRAYBELLS
9	... 2X12 B.M.T.	FENDER B.M.T. TWIN
10	... 2X12 UME 6	LINE 6 ORIGINAL
11	... 2X12 BLACKFACE	'65 FENDER BLACKFACE TWIN
12	... 2X12 MATCH	'96 MATCHLESS CHEFTW
13	... 2X12 JAZZ	POLAND TC-120
14	... 2X12 CLASS A	VOX AC-30 TB
15	... 1X10 UME 6	LINE 6 ORIGINAL

#	AMP MODEL	MODEL BASED ON
16	... 4X10 TWEED	'58 FENDER BASSMAN
17	... 4X12 UME 6	LINE 6 ORIGINAL
18	... 4X12 GREEN 30'S	MARSHALL W/ GREENBACK 30'S
19	... 4X12 GREEN 25'S	MARSHALL W/ GREENBACK 25'S
20	... 4X12 BRIT 17'S	MARSHALL W/ BR-17'S
21	... 4X12 BRIT 30'S	MARSHALL W/ MINTAGE 30'S
22	... 4X12 RECTO	REISA W/ CUSTOM CHESTDRUMS

CONTROLS REFERENCE



EFFECT MODELS

STOMPS

MODEL	MODEL BASED ON
FACE IT FUZZ	FUZZ FACE
FUZZ PI	BIG MUFF PI
SCREAMER	TS 808
CLASSIC DIST	RAT
OCTAVE FUZZ	OCTAVA
BLUE COMP	BOSS CS-1
RED COMP	DYNA COMP
VETTA COMP	LINE 6 ORIGINAL
AUTO SWELL	LINE 6 ORIGINAL
AUTO WAH	MUTRON III

MODULATIONS

MODEL	MODEL BASED ON
SINE CHORUS	LINE 6 ORIGINAL
ANALOG CHORUS	CE-1 CHORUS
LINE 6 FLANGER	LINE 6 ORIGINAL
JET FLANGER	ADA FLANGER
PHASER	PHASE 90

MODULATIONS CONTINUED

U-VIBE	UNI VIBE
OPTO TREM	FENDER OPTO
BWS TREM	VOX BIAS
ROTARY DRUM & HORN	LESLIE 145
ROTARY DRUM	FENDER VIBRATONE
AUTO PAN	LINE 6 ORIGINAL

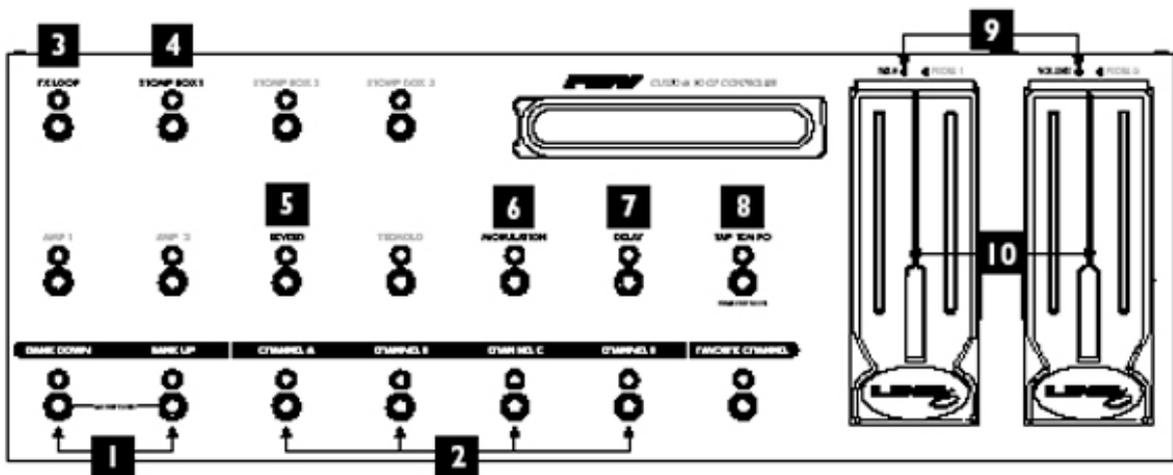
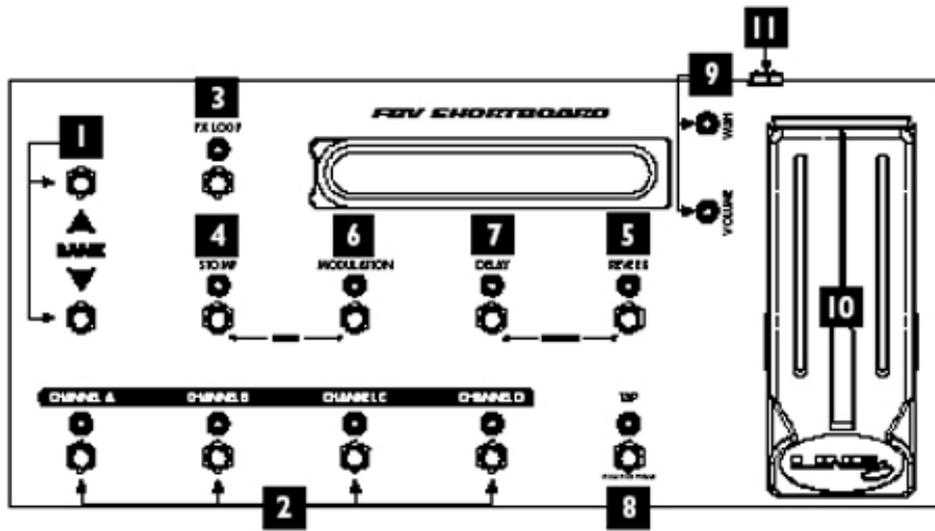
DELAYS

MODEL	MODEL BASED ON
ANALOG	BOSS DM-2
ANALOG W/ WOOD	EH MEMORYMAN
TUBE ECHO	EP-1 ECHOPLEX
WUIT-HEAD	ROLAND SPACE ECHO
SWEEP ECHO	LINE 6 ORIGINAL
DIGITAL	LINE 6 ORIGINAL
STEREO DELAY	LINE 6 ORIGINAL
PING PONG DELAY	LINE 6 ORIGINAL
REVERSE	LINE 6 ORIGINAL

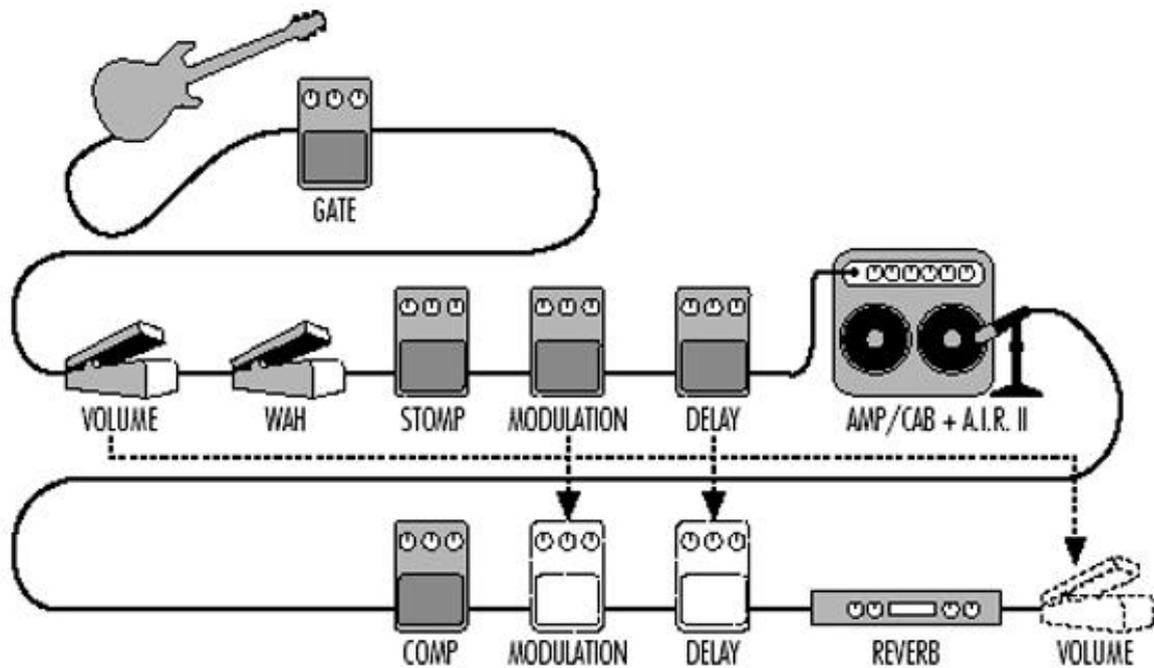
REVERBS

LOX SPRING
STD SPRING
LONG SPRING
SMALL ROOM
TILED ROOM
BRITE ROOM
DARK HALL
MEDIUM HALL
LARGE HALL
RICH CHAMBER
CHAMBER
CAVERNIOUS
SLAP PLATE
VINTAGE PLATE
LARGE PLATE

FBV SERIES REFERENCE



SIGNAL FLOW & EFFECTS ROUTING OPTIONS



WHAT ARE YOU CONNECTED TO?

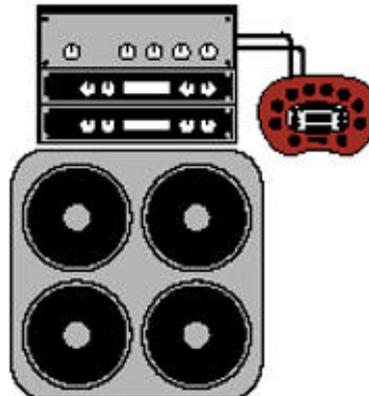
DIRECT (STUDIO/PA)



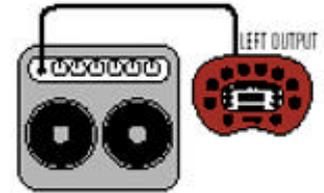
Use your A.J.R. settings to get the right mic sound you're looking for! Choose from:

- MIC 1 57 ON AXIS
- MIC 2 57 OFF AXIS
- MIC 3 421 DYNAMIC
- MIC 4 67 CONDENSER

POWER AMP WITH CABS



FRONT OF COMBO



All product names are trademarks of their respective owners, which are in no way associated or affiliated with Line 6. These product names and descriptions are provided for the sole purpose of identifying the specific products that were studied during Line 6's sound model development.

はじめに

この度は、LINE6 社製の PODXT をお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。

PODXT の性能をフルに発揮させ、未永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

ご使用前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用下さい。
5. 定格電圧 AC100V, 50/60Hz で御使用下さい。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様御注意下さい。
7. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にして下さい。
8. 故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

CONTROLS & CONNECTIONS

1. **Power Switch** : PODXT の右端。PODXT のオン/オフ・スイッチです。同梱の PX-2 パワー・パックを必ず使用してください。
2. **Input** : PODXT の右下。ここにギターからの出力を入れます。(モノラル又は、アンバランスの接続を選択します)
3. **Phones** : PODXT の左下。ヘッドフォンを使用する際は、ここにプラグを差し込みます。音量は OUTPUT ツマミで調節します。ヘッドフォン・アンプはあらゆる種類のヘッドフォンに対応しています。ヘッドフォンを使う際は音量設定に注意してください。
4. **Output** : PODXT の左下のつまみ。PODXT の全体的出力レベルおよび、ヘッドフォン出力を調節します(ギターと直接接続する場合も、アンプを通す場合も同様です)。PODXT のメモリー・ロケーションを保存する際でも、出力設定は保存されません。出力レベルを変更しても音色は変化しない為、ボリューム・レベルに関係なく好きな音作りができます。PODXT の出力レベルを最大に設定すると、ノイズが最も少なくなります。逆に出力レベルを低く設定すると、不快なヒス・ノイズが発生します。出力レベルを出来るだけ高く設定する為には、PODXT の出力信号をラインレベル入力端子に接続してください(マイクおよびギター入力には接続しないでください)。ラインレベル入力なら PODXT の出力レベルを最大レベルに設定でき、従ってノイズを最小限に抑えることが可能です。接続装置の入力がマイク/ライン兼用の場合、各入力レベルを最小に設定します。反対に PODXT の出力レベルは最大レベルに設定してください。
5. **Left & Right Output** : PODXT の左上部。バランス仕様 TRS フォンコネクターです。+4dBu のバランス仕様機材、および -10dBV のアンバランス機材に対応しています。スタンダードなギターケーブルを使用してください。モノラルで PODXT を動作する場合は、左側のアウトプットを御使用下さい。
6. **Foot Pedal Connector** : PODXT の上部。電話のコネクターに形が似ています。ここにオプションの FBV や FBV ショートボード・フットコントローラーを接続します。
7. **USB Connector** : PODXT の上部。PODXT は各社パソコンの最新機種に対応しています。USB 端子を使い、PODXT の音声信号を好みのレコーディング・アプリケーションに記録可能です。ドライバ・ソフトウェア (www.line6.com でダウンロード可) をインストール後、付属の USB ケーブルで PODXT とコンピュータを接続してください。コンピュータのセットアップ方法に関しては、7 章「Deep Editing and MIDI Control」を参照してください。
8. **MIDI In & Out** : PODXT の右上。PODXT を MIDI 対応機器に接続する場合、Channel Memories (Program Change メッセージ使用) を選択します。もしくは PODXT 自動設定 (コントローラーもしくは Sysex を使用) を選択します。www.line6.com でソフトを無料ダウンロードすれば、パソコンに PODXT のメモリーをバックアップ可能です。PODXT の MIDI 出力端子を、MIDI 対応機器の MIDI 入力端子に接続してください。また MIDI 入力端子は MIDI 対応機器の出力端子と接続します。MIDI 機器と PODXT の接続方法については、7 章「Deep Editing and MIDI Control」を参照してください。
9. **Drive** : ボタンパネルの左側のつまみ。選択したアンプモデル入力の GAIN を調節します。マスターボリュームのないギターアンプと同様に、高く設定するほど音の歪みが大きくなります。
10. **Tone Controls** : 右から、ベース、ミッド、トレブル、プレゼンス・コントロールです。通常のギターアンプと同じく、アンプモデルを変更すると各コントロールのレスポンスが変化します。従ってこのコントロールを操作すると、モデルとなったアンプのコントロール操作と同じエフェクトが得られます。
11. **Channel Volume** : ボタンパネルの右側のつまみ。演奏している“チャンネル”のボリューム・レベルをコントロールします。別々のチャンネル・メモリーに保存した音のレベルを調節します(例えばリズムとリード・トーン)。通常 S/N 比パフォーマンスを高める為、チャンネル・ボリュームをできるだけ高く設定します。ただし PODXT 画面上にクリップ表示が出ている場合はチャンネル・ボリュームを下げてください。

注意 : まずチャンネル・ボリュームを最大に設定した状態で、クリーン・チャンネルを保存してください。次にクランチ、およびリードチャンネルのボリューム設定を保存します。

12. **Reverb Level** : PODXT の右端のつまみ。リバーブ・レベルを設定します。PODXT にはスプリング、ルーム、チェンバー、ホール、プレートなどのリバーブが搭載されています。
13. **Effects** : PODXT の右下。このつまみで PODXT のエフェクト・セットアップを設定します。エフェクトに関する詳細は 6 章、「Stompboxes & Effects」を参照してください。各エフェクト・セットアップは全てのアンプモデルと組み合わせ可能、ペダル・ボードおよびアウトボードと同様の働きをします。EFFECTS ツマミを回すと、画面上にローディングされたエフェクト・セットアップ名が表示されます。エフェクトの切替も即座に耳で確認できます。エフェクト・ボタン・ライトにより、どのエフェクトが選択中か一目でわかります。全部で 64 種類のエフェクト・プリセットが搭載されています。
14. **Effect Tweak** : ディスプレイの右側のつまみ。このつまみによってエフェクトに変化をもたせます。つまみのレベルを上げると、エフェクトの深みが増したり、音量が大きくなったり、テンポが速まったりします。PODXT の画面にウィンドーがポップアップし、調整されているエフェクトを表示します。エフェクトのテンポは通常 TAP ボタンで調節します。EFFECT TWEAK ツマミを使いこなすためには、4 章「Creating & Storing Sounds」を参照してください。EFFECT TWEAK がターゲットとするエフェクトが解除されている場合、EFFECT TWEAK も停止状態となります。EDIT もしくは TUNER ボタンが点灯している場合、EFFECT TWEAK ツマミを使ってページを選択します。
15. **Amp Models** : PODXT の左下。このつまみを回すのは、エフェクターの電子回路を取り替えるのと同様です（詳細は 5 章「Modeled Amps and Cabs」を参照ください）。つまみを回すにつれて、ディスプレイ上のアンプ・モデル名が切り替わります。アンプ・モデルを選択すると、キャビネット・モデルが自動的にダウンロードされます。例えば Brit Hi Gain モデル(Marshall 製 JCM800 ヘッドに基づくモデル)を選択すると、Marshall4x12 に基づいたキャビネット・モデルが自動的にダウンロードされます。異なったアンプ/キャビネット・モデルを選択したい場合、CAB/A.I.R.ボタンを押してください。
アンプ・モデルを選択すると、アンプ関係のプリセットも同時にダウンロードされます。ドライブ、ベース、ミッド、トレブル、プレゼンス、Cab/A.I.R などの設定はどのアンプ・モデルを選択するかによって決まります。つまり Amp Models ツマミを回せば、全ての設定が完了します。PODXT の操作に慣れたら、アンプ・モデルの初期設定を好みにあわせて変更することも可能です。注意：マニュアル・モードの場合、ドライブ、ベース、ミッド、トレブル、プレゼンス、チャンネル音量、リバーブ設定は全て手動で設定する必要があります。詳細は 5 章をご覧ください。
16. **Select** : ディスプレイの左側のつまみ。PODXT には 64 種類のチャンネル・メモリーが搭載されており、膨大なアンプ/エフェクト・プリセットを保存しています。セレクトつまみは 4 チャンネルつづ 16 列に並んでいます（4 つのチャンネルはそれぞれ A、B、C、D と呼ばれます）。各列は 4 チャンネル・ギターアンプと捉えることが出来ます。オプションの Line6 フット・コントローラーも同様の配列を搭載しています。フットスイッチについての詳細は 8 章を参照してください。
SELECT つまみを回し、PODXT チャンネルをロードします。ディスプレイの下に配置されている「ソフトボタン」を押すと、その時点で使用されている BANK 内の別のチャンネルがロードされます。
チャンネルを呼び出すと、呼び出されたチャンネルの BASS の設定（最後に使用していた時の BASS の値）が最大でも、本体のつまみは最小値に設定されている場合もあります。この BASS の設定（その他のつまみでも共通）を変更するには、単純につまみを回すだけで OK です。「チャンネルメモリー」を終了し「マニュアル操作」にするには、ディスプレイの下にあるいずれかのボタンを 2 回押して下さい。ディスプレイに Manual Mode が表示されます。
17. **Display** :
- 1.SAVE、EDIT および TUNER ボタンが点灯している場合、画面左端のスクロール・バーでページの感覚がつかめます。3 種類のボタンのいずれかを押し、スクロール・バーを出してみてください。スクロール・バーにある点がページ数を示します。SELECT ツマミを回すとページ間の移動が出来ます。最初のページを開くと、スクロール・バーの小さな箱がスクロールの頂点にあります。最後のページを開くと、箱はバーの底に動きます。

2. ページを開くと、ディスプレイ底面に文字が現れます。この文字は調節可能なパラメーターを示します。文字の下にあるボタンを押し、Effect Tweak ツマミを回して調節を行ってください。
18. **Soft Buttons** : ディスプレイの真下にある 4 種類のボタンです。モード設定によって、ボタンの機能が変化します。通常の機能として、4 種類のチャンネルのひとつを即座にダウンロードします。また 2 回続けて押した場合、マニュアル・モードの ON/OFF 切替ができます。EDIT、SAVE または TUNER ボタンが点灯している場合、ソフト・ボタンを押すと Effect Tweak ツマミで各設定を変更できます。
19. **Effect On/Off Buttons** : ディスプレイ上の 4 種類のボタンです。このボタンを使って 4 種類のエフェクトの ON/OFF 切替を行います。ボタンが点灯している場合、エフェクトが ON であることを示します。
- COMP (Gate) ボタンにより、ダウンロードしたコンプレッサー・エフェクトの ON/OFF 切替が出来ます
- STOMP ボタンにより、Stomp-Box エフェクトの ON/OFF 切替が出来ます
- MOD ボタンにより、モデュレーション・エフェクトの ON/OFF 切替が出来ます
- DELAY ボタンにより、ディレイ・エフェクトの ON/OFF 切替が出来ます。
- ダウンロードしたエフェクトを調節したり、別のエフェクトをダウンロードしたい場合、これらのボタンのいずれかを 2 度続けて押してください。例えば、COMP ボタンを 2 度続けて押すと、COMPRESSOR/GATE EDIT ページに飛びます。STOMP ボタンを 2 度押すと、Stomp Box EDIT ページの 1 枚目に飛びます。
- 内蔵ノイズ・ゲートを解除するには、COMP ボタンを 2 度押し、スレッシュホールド・パラメーターを最低レベルに設定してください。
20. **CAB/A.I.R. Mode** : ディスプレイ右上のボタンです。CAB/A.I.R ボタンを一度押すと、アンプと組み合わせるキャビネット・モデル、キャビネットで使用するマイク、マイクが收音するルー、ムまで選択できます。EFFECT ON/OFF ボタンと違い、このボタンは ON/OFF タイプではありません。ボタンを一回押すだけで、キャビネットおよびマイクの設定を変更できます。
21. **Save** : 自分で作ったサウンドを保存する時にこのボタンを使います。詳細は 4 章 Creating & Storing Sounds をご覧ください。
- PODXT プリセット・サウンドを使用する場合、ディスプレイ上にはバンク・ナンバー、チャンネル・レター、およびチャンネル名が表示されます。ツマミを回したり、EDIT ページの設定を変えたりすると、バンク・ナンバーの左側にアスタリスクが表示されます。これはチャンネル・プリセットに変更が加えられたので、必要があれば保存をしてくださいという意味です。
- チャンネル・メモリーに加えた変更を保存したい場合、SAVE ボタンを押してください。ボタンが点灯します。現在ダウンロードされたチャンネル設定を同じチャンネル名で書き換えたい場合、SAVE ボタンをもう一度押してください。名前を書き換えたい場合、ソフトボタンの真中 2 つのボタンを押して文字を選択します。次に右側のソフトボタンを押し、Effect Tweak ツマミを回すと名前が変わります。DEST の下のソフトボタンを押し、Effect Tweak ツマミを回すと、各バンク (合計 16 種類) の A、B、C、D メモリー・ロケーションが切り替わります。メモリー・ロケーションを選び、SAVE ボタンを再度押してください。ボタンの点灯が止まり、プリセットの変更が保存されます。
- SELECT ツマミを回し、保存場所を呼び出すだけで保存したプリセットはいつでも再生可能です (オプション・フットコントローラーでのプリセット呼び出しについては、8 章を参照ください)。
- チャンネル・メモリーが起動されていない場合、マニュアル・モードで動作しています。各フェーダーの設定位置で音が決定します。前述と同じ容量でマニュアル・モードの設定をメモリー・ロケーションに保存できます。まず SAVE、次に DEST を押し、Effect Tweak を使って保存場所を選択します。最後に SAVE ボタンを押すと保存完了です。
- 保存を始めた後で保存を中止したい場合、任意のボタンを押してください (SAVE を 1 回押して、その後 15 秒間全くボタンが押されなかった場合、保存はキャンセルになります)。誤って気に入ったプリセットを上書きしてしまったとしても、心配無用です。SAVE ボタンの追加ページを使えば、チャンネル・メモリーのファクトリー・プリセットを呼び出すことが出来ます。この機能に関する詳細は 4 章を参照ください。
- また SAVE ボタンを使えば、アンプ・モデルやエフェクト・セットアップをカスタマイズ可能

です。AMP MODELS や EFFECTS を回すだけでお気に入りのバージョンが即座に呼び出せます。詳細は 4 章をご覧ください。

22. **EDIT** : EDIT ボタンを押すだけで、音色を細部にわたって加工することが出来ます。EDIT が点灯している場合、EFFECT TWEAK を使ってチャンネル・メモリーの全ページを開くことが出来ます。ここで全ての設定(エフェクト・パラメータ、キャビネット、マイクの選択)を行い、パラメータを Effect Tweak ツマミに割り当てます。EDIT に関する詳細は 4 章をご覧ください。
23. **Tuner** : このボタンを押すとデジタル・チューナーが作動します。その時、全てのエフェクト処理はバイパスされる為、音程がおかしい弦をはっきりと聞く事が出来ます。ギターを弾くと、PODXT の画面上に音符が表示されます。音符は全てフラットとして表示されます。例えば G の場合 A が表示されます。チューニングしたい弦を再度弾き、チューニング・キーを回して音をシャープかつフラットにして下さい。シャープの場合ボールは右寄りに移動し、フラットの場合左寄りに移動します。ボールが中央の位置に移動すれば、チューニングが完結することになります。TUNER ボタンを一回押すと、チューナーが消え、通常オペレーション・モードに戻ります。

Tuner Bypass/Volume : 通常チューニング中は音声ミュートされます。ただしチューニングの音を聴きたい場合、MUTE ボタンを押し、EFFECT TWEAK を回して Bypass を選択します。もう一つの手段として、FBV または FBV ショートボードが接続されている場合、ボリューム・ペダルでチューナーの音量をコントロールすることが出来ます。

Tuner Reference : A=440Hz とは異なる値でチューニングする場合はどのようにしたら良いのでしょうか？まずチューナー・モードを使用している時に、440Hz ボタンを押します。ディスプレイを見ながら、EFFECT TWEAK を回して下さい。これで周波数を 430~450Hz の間に設定する事が出来ます。この値の設定は保存される為、使用するたびにリセットする必要はありません。

24. **Tap** : このボタンでエフェクトのタイム、スピードを調節できます。好みのテンポでボタンを押せば、エフェクトが指定のテンポに変化します。テンポ・パラメーターが EDIT ページに設置されている為、指定したテンポが一目でわかります。設定したテンポにあわせてエフェクトを設定するには、4 章で詳細を確認して下さい。

GETTING SET UP

以下(1)～番号は本マニュアル冒頭の CONTROL REFERENCE に図解されている PODXT のノブ番号に対応しています。

この章では PODXT からベストなサウンドを引き出す方法について詳述します。PODXT はレコーディング、ライブの両方に適したエフェクターです。レコーディング・スタジオで PODXT を活用したい方はシナリオ 1「スタジオでの使用」を参照ください。またライブでの使用を予定している方は「ライブでの使用」をご覧ください。

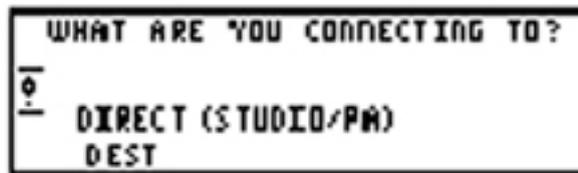
ALL PURPOSE BASICS (基本準備)

PODXT の AC アダプターをコンセントに差し込んで、本体右端にある(1)電源用 AC アダプターへ接続してください。ギター出力を PODXT の入力端子(2)へ差し込みます。PODXT の出力をアンプなどに接続します。出力端子(5)はバランス仕様フォン端子(tip/ring/sleeve)で、+4dBu バランス仕様のデバイスと互換性があります。またアンバランス仕様 - 10dBu デバイスとも使用でき、ケーブルは標準ギターケーブルで OK です。PODXT をモノラルで使用する場合、LEFT 出力を使ってください。

I. SCENARIO ONE (スタジオでの使用)

接続：

接続するデバイスによって PODXT の最良の設定は異なります。TUNER ボタン(23)を押し、次の画面が出るまで SELECT ツマミ(16)を時計回りに回してください。



EFFECT TWEAK ツマミ(14)を使って DIRECT (STEREO/PA) モードを選択します。このモードでは、Line6 特許技術である A.I.R.II DSP が起動され、スピーカー・キャビネット・エアール・マイクが堪能できます。

選択した DEST 設定は PODXT に記録されるので、電源を入れなおすごとにリセットする必要はありません。特別な状況下で DEST 設定を別の設定に変更した場合、通常使っている設定に戻す必要があります。PODXT にヘッドフォンを接続する場合、DEST 設定では直接接続が自動的に選択されます。

Ins and Outs : PODXT をレコーダーやミキサーなどに接続する場合、出力端子をデバイスのラインレベル入力端子に接続するように注意してください(マイクやギター・レベル入力には接続しないでください)。ラインレベル入力を使うことによって、ベストの S/N 比を得ることが出来ます。デバイスによってはマイク/ラインレベル入力が兼用で一つになっているものもあります。その場合低い信号レベル(マイク入力)を調節して高くする必要があります。TRIM を最低レベルに、PODXT の OUTPUT(4)および CHANNEL VOLUME(11) ツマミを最高レベルに設定してください。デバイスに使用可能なライン入力が 2 系統装備されている場合、これに PODXT を接続してください。マイク/ライン接続を行うより音が良くなります。

Setting Levels : 歪みが生じない程度に PODXT の出力レベルを調節します。AMP MODEL ツマミ(15)を Line6 クリーンに、DRIVE(9)コントロールを時計の正午の位置に、CHANNEL VOLUME を最大レベルに設定してください。次に PODXT の OUTPUT ツマミや入力ボリューム・コントロールを調節し、歪みが発生しない程度で PODXT の最大レベルを出してみてください。ヘッドフォンがある場合、PODXT のヘッドフォン出力に接続し、モニタリングをしてみてください。ヘッドフォンを耳に装着する前に、音量が大きすぎないことをチェックしてくだ

さい。ヘッドフォンの音量レベルも OUTPUT によって設定されます。

TIP: クリーン・チャンネルを一番先に (CHANNEL VOLUME が最大の状態で) 保存してください。次にクランチおよびリード・チャンネルのより低いチャンネル・ボリューム設定を保存します。

Radiation Alert: シングルコイルのギターを使用している場合、コンピューターのモニターからのノイズを簡単に拾います。CRT のディスプレイは特殊な放射線を放出しているため、ギターのピックアップは放出する電磁波を受信し、増幅します。そして、これらはバズやハムノイズとしてオーディオ信号から聞こえてきます。CRT から離れ、ギターを画面から離し、コンピューターとのディスプレイに直接向き合わなければ、その問題は最小限に抑えることができます。しかし、狭いスタジオでは、バズノイズを含む CRT に悩まされながら素早くトラックを行う必要があります。以上を防ぐためには、録音するトラックを設定し、プリロールをスタートし、モニターのスイッチをオフにします。そしてギターの音を録音します。レコーディングが終了したら、モニターのスイッチを入れ、バズノイズの無い再生音を確認します。

Pedal Power: PODXT のフットコントローラーのオプションには、Line6 FBV と FBV Shortboard があります。PODXT のチャンネル選択、エフェクト・スピード、タイム、テンポ調節、チューナーの ON/OFF、ワウペダル、ボリュームペダルなどのコントロールがフットコントローラーから行えます。どちらのフットコントローラーを使うにしても、PODXT のペダル・ジャック (6) に接続してください。旧モデルの Line6 FLOORBOARD や FB4 ペダルは PODXT では使用できません。

MIDI MANIA

PODXT は MIDI 経由ですべてをコントロールする事が出来ます。MIDI を使用する事によって、PODXT のチャンネルを選択したり、パラメーターを自動に操作する事が出来ます。例えば、レコーディング・トラックをスタートさせます。(ギターは直接 MTR へ、PODXT の MIDI 出力のレコーディングは MIDI シーケンサーへ行きます)。そしてトラックしながらフロントパネル又はフットコントローラーで PODXT のメモリーを変更したり、リバーブを上げ、トーンのノブを回したり、アンプを他へ変更したりする事が出来ます。レコーディングを停止し、シーケンサーからの MIDI 信号を PODXT で再生すると、PODXT はレコーディング時と同じ動作をします。録音可能な MIDI トラックとギタートラックだけを再生する事も出来ます。PODXT のノブとボタン、フットコントローラーで必要な機能の自動操作を行えます。また MIDI メッセージをエディットしたり、他の PODXT の応用も可能です。詳細は Deep Editing & MIDI Control を参照して下さい。

II. Scenario Two (ライブでの使用)

ライブにおいて PODXT をギターアンプ用 “フロントエンド” 又は、サウンドシステムへのダイレクト出力する際は、以下を参照して下さい。

Mount Up (仕込み): ライブ演奏の場合、ステージの一番身近な所に PODXT を設置したものです。その場合 1 番簡単な設置方法は、PODXT のオプションのマイクスタンド、アンプトップ、デスクアダプターを使用することです。これらは持ち運びにも大変便利です。

Keeping Your Options Open: PODXT をライブ演奏で使用する場合、セットアップ方法には多数の選択肢があります。マイクやキャビネットを介さず、PODXT の出力端子を直接システムに接続することも可能です。逆にパワーアンプやスピーカー・キャビネットに接続し、PODXT をプリアンプとして使用する手もあります。または PODXT をギターとギターアンプの間に接続し、アンプ用のフロント・エンドとして使うことも出来ます。設定方法は以下の通りです。

接続：

接続方法には 3 種類あります。

ダイアログを開くには、TUNER ボタン (24) を押し、SELECT ツマミ (16) を回して次の画面を出してください。



EFFECT TWEAK ツマミ (14) で最適なセットアップを選択します。

Direct (Studio/PA)

PODXT を PA システムに直接接続する場合や、ヘッドフォンでモニタリングする場合、この接続方法が最適です。このモードでは Line6 特許技術の A.I.R. プロセッシングが起動し、素晴らしいギターアンプ/マイク設定が堪能できます。

Power Amp with Cabs

このオプションを選択する場合、PODXT をパワーアンプ/1 台以上のキャビネットに接続してください。A.I.R. の MIC および ROOM 部分は解除され、キャビネット・モデルは自動的に最適なモデルが選択されます。

In Front of a Combo

コンボアンプの入力に PODXT を接続する場合はこのモードを選択してください。オープン・バック・スピーカー・キャビネットに接続したコンボアンプの入力に PODXT を繋ぐ必要があります。A.I.R. の MIC および ROOM 部分は解除され、キャビネット・モデルは自動的に最適なモデルが選択されます。

選択する DEST 設定は PODXT で記録されるので、電源を入れなおすたびにリセットする必要はありません。ただし特殊な状況下で設定を変更した場合、通常使用する設定に戻しておく必要があります。

Live Performance Notes：コンボアンプの入力に PODXT を接続する場合、コンボアンプははじめニュートラルに設定してください。ニュートラルとは、アンプのボリュームコントロールを十分に低く設定し、音をクリーンにするだけのことです。これで PODXT のサウンドが限りなくピュアになります。ボリュームコントロールだけでなく、マスター・コントロールが入力レベル用に搭載されている場合、両方レベルを低く設定する必要があります。アンプにより差がありますが、一般的に入力レベルよりマスターボリュームの設定の方がサウンドのクリーンさ、歪みの少なさを大きく左右します。パッシブ・トーン・コントロールが装備されている場合、中域を最大レベル、高域および低域を 0 に設定してください。アクティブ・トーン・コントロールの設定はアンプの種類により異なりますが、アンプがオーバードライブしないよう注意して設定してください。以上の設定が終わったら、アンプを微調整して好みのサウンドに合わせます。PODXT の出力レベルも、アンプの入力がオーバードライブしないことに留意して調節します。パワーアンプに接続可能なエフェクト・リターン付きのアンプの場合、PODXT を直接接続できます。その場合アンプのトーン・コントロールはバイパスされ、PODXT のサウンドがクリーンなまま再現可能です。この手法でエフェクト・リターンもしくはアンプに直接 PODXT を接続する場合、「接続」のセクションでは POWER AMP W/CABS を選択してください。

External Stomp Boxes and PODXT: PODXT には便利な Stomp Box やラック・エフェクト・モデルが搭載されていますが、お気に入りのペダルも併用することが出来ます。エフェクターを PODXT よりも前に接続する場合、PODXT 上で選択されている Amp Model に応じてエフェクターのサウンドやトーンも変化します。

Creating & Storing

この章では PODXT の編集テクニックを学びます。ダウンロードから音質の変更まで、PODXT のアンプ/エフェクトモデルのカスタマイズ方法が詳述されています。

Recalling Channel Memories : PODXT の電源を入れると、画像が次のようになります。



SELECT ツマミをつかって各チャンネルを回転させます。チャンネルは 16 個のバンクに編成されており、各バンクには 4 種類のチャンネル・メモリー (A、B、C、D) が搭載されています。SELECT ツマミを回し、欲しい音に合ったチャンネルを選択します。トーン、ボリューム、リバーブツマミに加え、エフェクト用の ON/OFF ボタンが搭載されています。また EFFECT TWEAK ツマミを使えば、重要なエフェクト・パラメーターを簡単に変える事が出来ます。

Recalling Effect Setup : PODXT の便利な機能のひとつは、カスタマイズされたエフェクト・セットアップを作成/保存できることです。この機能は配線を完了させたペダル・ボードやプログラムされたラック・ギアと考えることも出来ます。PODXT には 64 種類のセットアップが搭載されており、EFFECTS ツマミを回すだけでアクセス可能です。ツマミを回せばエフェクト・セットアップ名が表示されるので、耳で聞いてエフェクトを確かめてください。

Stompbox-style Control : PODXT ではコンパクトエフェクターのように、4 種類のエフェクトを ON/OFF 切替可能です。ディスプレイの上に配置されたボタンが鍵です。

Comp (Gate)

LA-2A コンプレッサーの ON/OFF を行います。ボタンを 2 度押すと EDIT ページに飛び、ノイズ・ゲートとコンプレッサー設定が同時に行えます。ノイズゲートは EDIT ページから調節および ON/OFF 切替が行えます。

Stomp

歪み・ボックスおよびストンプ・ボックス・コンプレッサーが格納されている場所です。他のエフェクト・ボタンと同様にボタンを押すと ON/OFF 切替ができ、2 度押すと EDIT ページに飛びます。

Mod

PODXT にはモジュレーション・エフェクトが数種類搭載されています。このボタンを押すと、ダウンロードされたモジュレーション・エフェクトの ON/OFF が行えます。2 度押すと EDIT ページに飛びます。

Delay

ディレイ・モデルはここに配置されています。このボタンで ON/OFF 切替を行い、EDIT ページに飛ぶにはボタンを 2 度押します。

Editing Basics : このセクションでは、PODXT の調節方法について詳述します。PODXT の便利なツマミ、ボタン、およびディスプレイのお陰で、あらゆるパラメーターが即座にアクセス可能です。旧 POD モデルのように、編集時にパソコンに繋ぐ必要はありません。

編集を始めるには、EDIT ボタンを押してボタンが点灯するのを確認します。次に SELECT ツマミを回すと、PODXT のパラメーターが全て表示されます。画面上のパラメーターを変更するには、ディスプレイ下の SOFT BUTTON を押し、EFFECT TWEAK を回すだけです。ここで変更した設定を保存するには、SAVE ボタンを押し、保存先の CHANNEL MEMORY を選択

してください。

Double Press for Easy Access : Mod エフェクトの変更、他のディレイ・モデルの選択は、以下の手順で行います。COMP、STOMP、MOD もしくは DELAY を 2 度押しすると、関連エフェクト・パラメーターの最初のページに飛びます。再度ボタンを 2 度押しすると、EDIT ページが解除されます (CAB/A.I.R. ボタンを押すとページを選択できます。解除するには EDIT を押しします)。

Inside the Edit Menu : EDIT ボタンが点灯している場合、PODXT ディスプレイの左側に EDIT メニューが表示されるのが分かるはずですが、SELECT ツマミを回すと、グラフィック中のボックスがメニューをスライドさせるのが確認できます。グラフィック中のドット (点) が EDIT ページのページ数を示します。

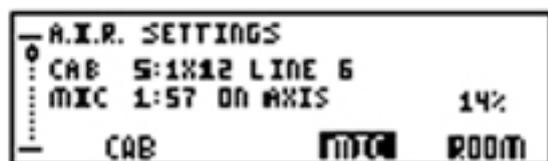
Amp Knob Settings : EDIT ボタン点灯中は SELECT ツマミを左回りに回すと、EDIT メニューの 1 ページが選択できます。このページは現在選択されたチャンネルのツマミ設定を表示します。



ディスプレイのトップには、アンプ・モデルの名前が表示されます。AMP MODELS ツマミを回し、トーン・コントロール設定が変わるのを確認してください。トーン・コントロールはアンプ・モードにあらかじめプログラムされたプリセットです。では好みに合わせて、アンプモデルをカスタマイズする方法について説明します。

ツマミのそばに小さなドット (点) があるのが見えますか? このドットは最後に保存されたツマミ設定を示しています。Drive ツマミを回し、ツマミがディスプレイ上で移動するのを確認してください。また小さなドットはページを開いたときと同じ場所にあるはずですが、この機能により、変更後の設定と変更前の設定を比較することが出来ます。

Cabinet and Mic settings : AMP KNOB ディスプレイから、SELECT ツマミを右回りに 1 クリック回してください (CAB/A.I.R.) ボタンを押すことでもこのページに飛びます) 次の画面が表示されるのを確認してください。



A.I.R. 設定はあらゆるキャビネットモデルとアンプモデルをマッチングさせ、なおかつ完璧なマイク設定を実現します。

ディスプレイ上の CAB の下にあるボタンを押し、EFFECT TWEAK ツマミを回してください。選択可能なキャビネット・モデルが切り替わります。

マイク・モデルの切替やルームの拡張も同様の手順で行います。ディスプレイに MIC と表示された下のボタンを押し、EFFECT TWEAK を回してマイク・モデルを選びます。

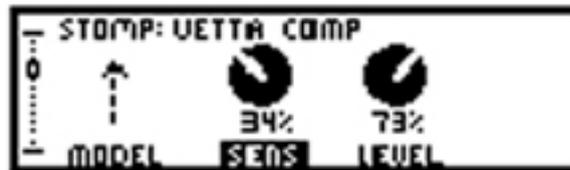
この設定により、A.I.R. のレコーディング環境から発生するサウンドを完全にカスタマイズ可能です。CAB/A.I.R. ボタンを押すだけで、いつでも、どんな設定からでもこのページに飛ぶことが出来ます。

Effect Editing : PODXT のエフェクトは、編集方法が全て同じです。エフェクト ON/OFF ボタンを押すと、対応するエフェクトの第一ページに飛びます。次にディスプレイ下のボタンを押

し、パラメーターを選択し、EFFECT TWEAK ツマミで調節を行います。他のページに飛ぶには、EDIT ボタンが点灯している状態で SELECT ツマミを回します。ディスプレイ左側のスクロールバーにより、ページのどの部分を開いているのかが一目瞭然です。一般的にほとんどのエフェクトには 2 ページ分のパラメーターしか搭載されておらず、主要なパラメーターは全て 1 ページ目に配置されています。1 ページ目で希望のパラメーターが見当たらない場合、SELECT ツマミを 1 クリック右回りに回し、次のページに飛んでください。

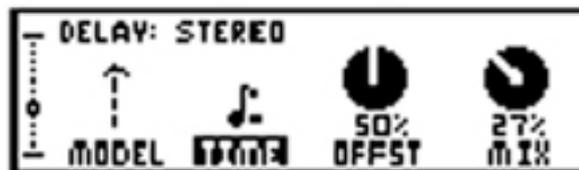
操作例：

STOMP ボタンを 2 回押します。STOMPBOX の EDIT ページには 1 ページしかなく、次のような画面になります。

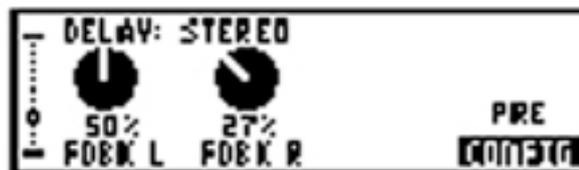


ディスプレイ下の左から 1 番目のボタンを使って、エフェクト・モデルを選択してください。また Vetta Comp には感度、レベルに対してツマミがあることに気づくはずですが、SENS の下のボタンを押し、EFFECT TWEAK で調節してください。

Delay Edit Page 1



Delay Edit Page 2



ページ 2 の CONFIG は、PODXT のボリュームペダル、ディレイ、および MOD に使用可能です。ペダル、ディレイ、および MOD の位置を次のように設定できます。

PRE：アンプの前に STOMPBOX を設置できます。

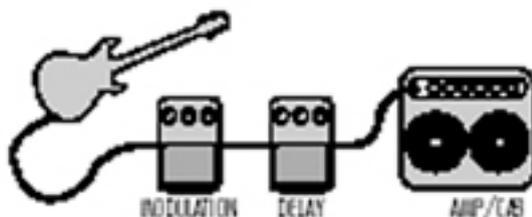
POST：アンプのうしろにラックタイプのエフェクトのように設置できます。

PRE/POST の詳細は次の図面を参照してください。

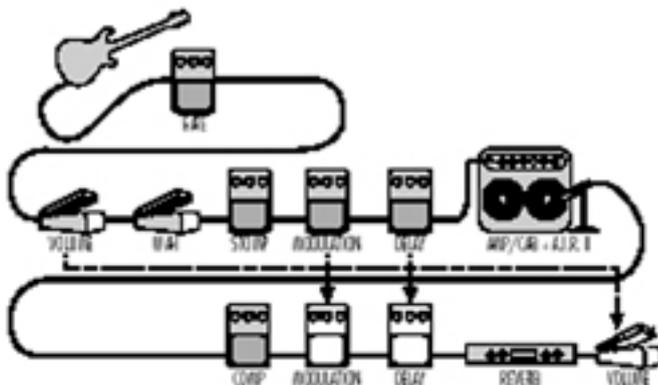
次の図は MOD エフェクトが PRE、DELAY エフェクトが POST の典型的な接続例です。



次の図は MOD および DELAY エフェクトが PRE の接続例です。



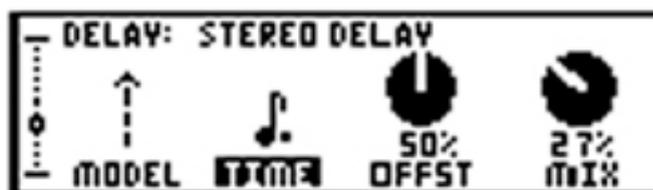
次の図は PODXT の内部の信号経路を図にしたものです。



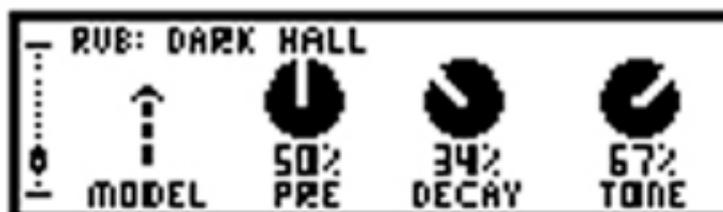
Setting your Tone to Tempo : エフェクトにグループを加える秘訣は、Note Values です。Note Values は現在選択されているテンポに基づき、ベストなディレイ・タイムおよびモジュレーション・スピードをはじき出します。例えば、16 音符のトレモロを 8 音符のディレイに組み合わせることも可能に成ります。

Mod スピードとディレイタイムを設定するには、以下の手順に従ってください。

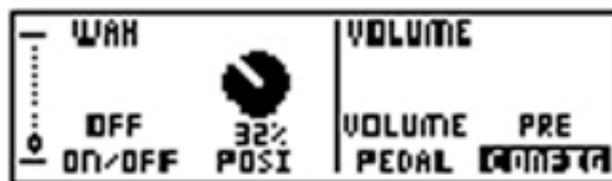
- 1.ディレイ・タイムおよび Mod スピードの下にあるボタンを押します。
- 2.EFFECT TWEAK を左に回してください。ミリセカンドやヘルツが表示されていた位置に音符が現れます。
- 3.TAP ボタンを 2 度押し、テンポ、ディレイまたは Mod をテンポにあわせて設定してください。ディレイが音符を使用するように設定すると、TIME コントロールは次の画像のようになります。



Reverb : PODXT では、リバーブ・モデルだけでなく、付属するパラメーターも変更することが出来ます。Reverb で調節ができないのは Reverb Mix だけです。リバーブ・ミックスは専用の REVERB ツマミでコントロールします。



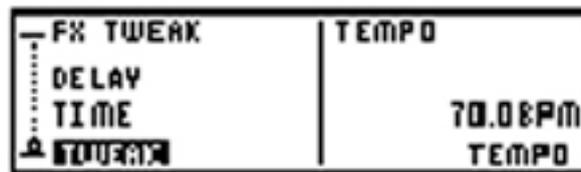
Wah and Volume : リバース・エディット・ページから SELECT ツマミを 1 クリックだけ右回りに回します。次の図の通り Wah および Volume パラメーターが表示されます。



まず Wah について詳述します。ここ数年、Wah の ON/OFF 設定をチャンネル・メモリーに保存したいという POD ユーザーがたくさんいらっしゃいました。その場合チャンネルを選択するだけで、Wah が自動的に起動します。POSI の下のボタンを押し、EFFECT TWEAK ツマミを回すだけで、Wah の細かい設定まで再現可能です。

今度は Wah/Volume の右側について説明します。ここではオプションの FBV ショートボードに接続されたエクスペッション・ペダルをコントロール可能です。PEDAL が VOLUME に設定されている場合、EX-1 が PODXT の音量を調節し、ショートボードの内蔵ペダルが Wah のコントローラーとして割り当てられます。PEDAL が TWEAK に設定されている場合、エクスペッション・ペダルを踏み込むことで、FX TWEAK に割り当てられたパラメーターが最上レベルから最大レベルに変化します。ディレイや MOD エフェクトと同様に、ボリュームペダルの位置を PRE/POST の間で選択できます。

FX Tweak Knob Assign / Tempo Assign : 演奏がのっていて、エフェクト・パラメーターを一つだけ調節したい時がありますが、そのときの調節は非常に難しいものです。ただし PODXT なら問題は解決します。EFFECT TWEAK ツマミ設定をコントロールする EDIT ページについて説明します。



このページから、指定のチャンネル・メモリーで調節する EFFECT TWEAK ツマミを選択します。ディスプレイ下の TWEAK ボタンを押し、EFFECT TWEAK ツマミを使ってパラメーターを選択してください。

ディスプレイの右側はチャンネル・メモリーのテンポを表示しています。このテンポに基づき、テンポのあとにくるディレイや MOD エフェクトのタイム/スピードが計算されます。テンポを設定するには、TAP ボタンを 2 回たたいてください。または TEMPO と表示されたボタンを選び、EFFECT TWEAK ツマミを回し、テンポを設定します。

Saving Yourself : PODXT には最大 64 トーンが保存できます。ファクトリー・プリセット・サウンドを吟味し、保存すべきサウンドとそうでないものを区別するのも効果的です。プリセットの保存、再生方法をこれから説明します。www.line6.com にアクセスすれば、Tone 転送データベースが使用できます。ここではトーンをダウンロードしたり、自作のトーンをデータベースに追加することも可能です。

Saving a Channel Memory : チャンネル・メモリーの最も簡単な変更方法は、チャンネル・メモリーを呼び出し、微調整した後で名前を変えずに変更することです。調整を加えたチャンネル・メモリーを保存するには、SAVE を押し、もう一度 SAVE を押すだけです。調節を加えたプリセットを別のチャンネル・メモリーに保存したり、チャンネル・メモリーの名前を変えて保存することももちろん可能です。

編集したプリセットを別の場所に保存するには :

編集後、SAVE を押してください。画面が次のようになります。



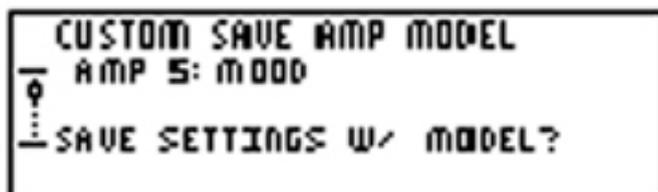
ディスプレイ下の DEST (Destination「方向」の略) ボタンを押し、EFFECT TWEAK ツマミでチャンネル・メモリを選択してください。SAVE をもう一度押すと、選択したチャンネル・メモリーに保存が完了します。

編集したトーンに名前を付けるには：

編集後、SAVE を押すと、上と同じ図が表示されます。CURSOR ボタンを使い、変更したい文字の下にカーソルを移動させます。次に EFFECT TWEAK で選択された文字を変更します。完了したら SAVE をもう一度押してください。

Custom Save Amp Model：この機能を使い、PODXT の設定を自分だけのスタイルで変更することが出来ます。この機能を使うには、AMP MODEL ツマミを回し、カスタマイズされたアンプモデルをダウンロードしてください。この作業によって、AMP MODEL ツマミを回して Plexi45 モデルを選択すると、カスタマイズされた Plexi45 がダウンロードできます。操作手順は以下の通りです。

アンプモデルを選択してからキャビネットを変更し、ルーム調節、マイク選択をして、なおかつリバーブなどパラメーターを変更します。次に SAVE ボタンを押し、SELECT ツマミを回して次の画面を出します。



Custom Save にはいりました。今保存したアンプモデル設定を再現するには、SAVE ボタンをもう一度押してください。

PODXT は次の表のコントロールをアンプモデルに保存します。AMP MODEL ツマミを回すだけで、コントロールをダウンロード可能です。

カスタマイズ可能なコントロール
アンプモデル
キャビネットモデル
Drive、Bass、Middle、Treble および Presence コントロール
チャンネル・ボリューム
ボリューム・ペダル (Pre/Post)、ミニマム設定

Custom Save Effect Setup：PODXT では EFFECT ツマミを回すだけで、64 種類ものプリセット・ペダル・ボードおよびラックにアクセス可能です。お気に入りのアナログディレイ・エフェクターのセッティングをそのまま活かして PODXT と使用する場合には、PODXT アンプの後に接続し、他の Amp Model といろいろ組み合わせカスタムセットアップを創ってみてはどうでしょう。

操作方法は以下の通りです。

SAVE ボタンを押し、SELECT ツマミでスクロール・ダウンし、次の画面を出してください。



保存場所：ディスプレイの下の DEST (Destination) ボタンを押し、次に EFFECT TWEAK ツマミを回して保存場所を指定します。

名前の付け方：新しく設定した EFFECT SETUP に名前を付けたい場合、CURSOR ボタンを使って変更したい文字の下にカーソルを動かします。次に CHAR (Character) の下のボタンを押し、EFFECT TWEAK で選択された文字を変更します。

COMMITMENT：SAVE ボタンをもう一度押すと、COMP、GATE、STOMP、MOD,DELAY および REVERB の設定が全て保存されます。

Single Channel Recall：創作活動にのっていると、気が付かないうちにお気に入りのファクトリー・プリセットを上書きしてしまうことがあるかもしれません。PODXT ならそんな心配も無用です。お気に入りのプリセットをよみがえらせるには、以下の手順に従ってください。SAVE ボタンを押し、SELECT ツマミを回して次の画面を出してください。



ここで SAVE を押せば、選択中のチャンネル・メモリーのファクトリー・プリセットが再現されます。または EFFECT TWEAK ツマミを回して別のチャンネル・メモリーを選択します。もう一度 SAVE を押せば、上書きされたプリセットがよみがえります。

Complete Factory Recall (初期化)：PODXT のメモリーを新品の状態に戻したいときは、以下の手順に従ってください。SAVE ボタンを一度押し、SELECT ツマミを回して次の画面を出します。



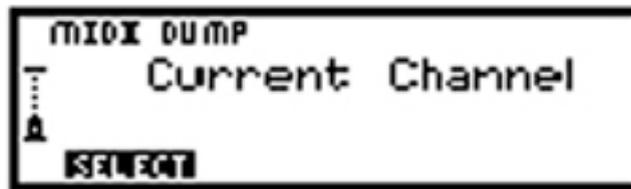
ここでもう一度 SAVE を押せば、変更を加える前の PODXT 設定が復元されます。
注意：上の作業を行うと、アンプ、エフェクトなど、全てのカスタマイズ設定がリセットされてしまいます。

MIDI Dumps：PODXT からトーンをもう一台の PODXT に転送したり、PODXT と MIDI データレコーダー、ワークステーション、パソコン又はシーケンサー間で転送をしたい場合、このセクションをお読みください。転送には標準 MIDI ケーブルが必要となります。PODXT の MIDI OUT を外部デバイスの MIDI IN に接続してください。

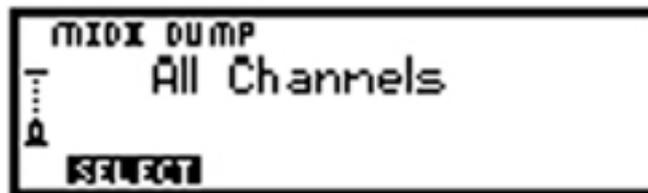
データ転送できるもの：

- 全てのチャンネル
- 現在選択されているチャンネル
- エフェクト・セットアップ
- アンプ・セットアップ (カスタマイズされたものを含む)

Transferring All Channel Memories : この機能を使うと、MIDI を通して PODXT のチャンネル・メモリーを全て外部デバイスに転送することができます。つまり、64 種類のチャンネル・メモリーを完全にバックアップ可能です。
まず SAVE ボタンを押し、SELECT ツマミを回して次の画面を出してください。

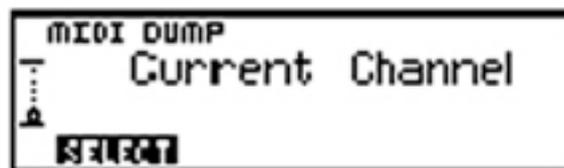


SELECT の下のボタンを押し、EFFECT TWEAK ツマミを左に回して次の画面を出します。



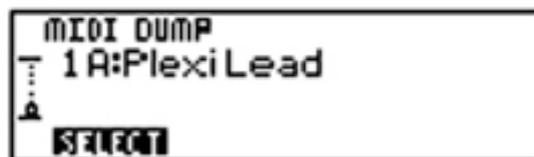
ここで SAVE ボタンをもう一度押せば、PODXT のチャンネル・メモリーが全て MIDI 端子を通して外部デバイスにダンプされます。もう一台の PODXT が接続されている場合、ダンプしたデータが上書きされます。つまり、PODXT のクローンを作ることが可能です。

Transferring Only Some Channels : 1 種類など、少数のチャンネル・メモリーやエフェクト・セットアップ、アンプモデルを PODXT からもう一台の PODXT に転送する場合、以下の手順に従ってください。
SAVE ボタンを一度押し、次の画面が出るまで SELECT ツマミをスクロールしてください。

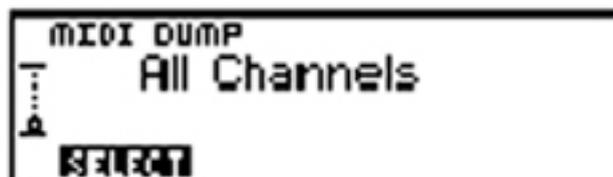


SELECT の下のボタンを押し、EFFECT TWEAK ツマミを回して転送すべきデータを指定します。

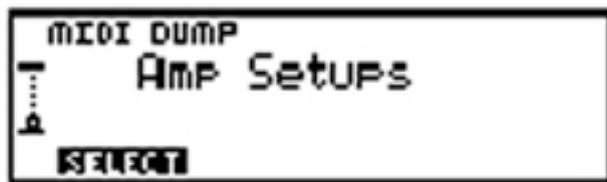
どのチャンネル・メモリーでも転送可能



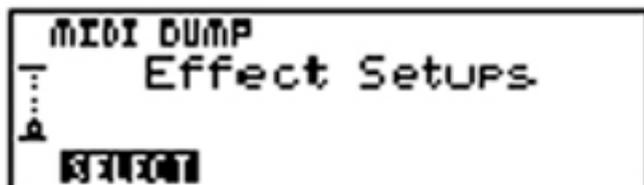
全てのチャンネル・メモリーを転送可能



全てのアンプモデルを転送可能



全てのエフェクトを転送可能



ここで SAVE をもう一度押すと、選択した MIDI ダンプがもう一台の PODXT、もしくはパソコンや MIDI デバイスに送信されます。

Model Amps and Cabs

モデルになったアンプ/キャビネットは？

モデルに関して

ご存知の通り、Line6 のエンジニアは皆トーンマニアです。特定のアンプをモデルにソフトを作成するとなれば、世界中どこまでも「標本アンプ探しの旅」に出てしまいます。

アンプの商品名が長年の間変わらずに残っているものもありますが、実際には内部回路が全く異なるものも多々あります。例えば、57年製、62年製、65年製、67年製、75年製、2002年製の同じアンプでも、サウンドやレスポンスが完全に違うものやデザインも変更されているものもあります。さらには、時間と共にサウンドが成熟していくアンプもあります。こういった理由から、モデルとする同じアンプの中でも最高の状態のものを探すことに惜しみなく時間と労力をかけたのです。

PODXT には 32 種類のアンプと 22 種類のキャビネットがシミュレートされています。AMP MODELS つまみを回すことで、アンプ/キャビネットの組み合わせを選択します。その際に CAB/A.I.R. ボタンを押してアンプ/キャビネットをミックス/マッチさせます。

Line 6 オリジナル

ヴィンテージアンプでは得ることの出来ない独特のトーンを、Line6 オリジナルとして紹介します。

Line 6 Clean

Roland JC-120 のプリアンプ/トーンスタックと Marshall JTM-45 チューブヘッドアンプのパワーアンプ/トランスフォーマを基盤として開発。ソリッドステートでしか得られないシャキッとしたクリーントーンにチューブサウンド特有のリッチなトーンを加えました。

Line 6 JTS-45

初期の Marshall アンプは Fender Tweed Bassman の回路を元に開発されたということなので、JTM 45 のプリアンプ/トーンスタックと 58 Tweed Bassman のパワーアンプ/トランスフォーマを組み合わせたらどうなるだろう、そんな好奇心から完成したのがこのオリジナル。万人に愛される「パンチ」が効いています。

Line 6 Class A

ギタリストとしての最高トーンの一つに、パワーアンプがオーバードライブし始めようとしてクリッピング直前のポイント、「スイートスポット」があります。この「スイートスポット」こそ、この Class

A アンプを創り上げる目標でした。

Line 6 Mood

現在でも愛されているグランジ・トーンをベースに開発されたファンタジア（奇怪な）トーン。

Line 6 Spinal Puppet

ヘッドバンギング・ミュージックを演奏中、オーディエンスを見れば全ての頭が上下にバンギングしているはず。これが Spinal Puppet。これ以上の説明は不要でしょう...

Line 6 Chemical X

Line 6 のサウンドデザイン・エンジニアは、このトーンの原型モデルなどについて内緒にしていますが...、短刀直入に言えば、この Chemical X トーンはパンチの聞いたハイゲイン歪みです。

Line 6 Insane

入力ゲイン・歪みを最大限に引き出すことがこのトーンメイキングでの最終地点でした。まるで Dual Rectifier をプリアンプとして使用し 10 まで上げた時のサウンドでありながら、トーン・キャラクターを失うことはありません。

Line 6 Piezacoustic 2

これは、アコースティックピックアップを搭載したソリッドボディーのピエゾ出力用にデザインされています。このようなギターでよくあるフィードバックも心配することなく、ロー・ミッドとローもはっきりと出ます。

Zen Master



このモデルは Budda Twinmaster 2x12 Combo をベースに開発されました。Budda は、ウォームな ClassA/B サウンド、パワーチューブ・歪み、シンプルなデザインで知られています。比較的ローなフロントエンド、優れたインタラクティブ・トーンコントロール、チューブレクチファイアー独特のサステーン。オリジナルの Twinmaster にはミッドコントロールがないため、POD XT では MID コントロールによりミッドの調整もできます。

Twinmaster の Input 2 をモデルとしてデザインされました。

Small Tweed



1953 年式ワイドパネル Fender Tweed Deluxe をモデルとして、最高のサウンドを演出します。オリジナルモデルにはトーンコントロールが1つ（トレブルのロールオフ）しかありませんでした。POD XT では、TREBLE でトレブルロールオフを調節し、MIDDLE と BASS はポストアンプ EQ として使用します。MIDDLE と BASS を「5」にセットするとニュートラルになり、PRESENCE を「0」に、TREBLE を「5」のあたりにセットするとクラシックな Tweed サウンドが得られます。

Tweed B-Man



58 年製 Fender Bassman 4x10 Combo は全ての始まりでした。当初はベースアンプとして登場したのですが、ギターで使用した場合、想像どおりの太いベースサウンドが得られ、その上 Fender 特有の「鼻詰まり」トーンが得られます。

Bassman のトレブルとミッドはお互いに影響を与え合うことが特徴です。MIDDLE コントロールは「第2の TREBLE」のような働きをし、POD XT 本体の MIDDLE を半分以上上げると、TREBLE でよりブライتناトーンコントロールを得ることができます。その反対に MIDDLE を落とすと TREBLE をブーストする必要があるかも知れません。オリジナルの Bassman にはマスターボリュームがついていないため相当大きな音量でないと望んでいるトーンが得られません。その点 POD XT では、寝室やスタジオレベルの演奏でも同等のトーンを生み出し、ヘッドフォンで聞くこともできます。

Tiny Tweed



1961 年製 Tweed Champ をモデルとしてデザインされたトーン。このアンプは、もともとビギナー用として開発された小型アンプなのですが、Drive を上げた時に最高のトーンが得られることで多くのロックミュージシャンから愛されました。50 年代に演奏されたギターソロの多くは、この Champ によるトーンです。オリジナルの Champ にはトーンコントロールがなく、ボリュームのみでした。POD XT では、TREBLE、MIDDLE、BASS をすべて 12 時の位置にすることで、いわゆるフラットな設定となります。さらに PRESENCE をゼロの状態に、クラシックな Champ トーンになります。オリジナルのトーンの幅を開拓する場合もこれらの EQ コントロールで魔法のトーンを創り上げることもできます。

Blackface Lux



ブルース、カントリー、そしていわゆるルーツといわれる音楽を演奏するロックミュージシャンたちにとっての「聖杯」がこの Fender Deluxe Reverb です。Deluxe は、ボリュームを 7 くらいに上げた時に特有の「ジャリッ」としたトーンを出します。ギター側のボリュームを少し絞るだけで、トーンが大きく変化します。オリジナルには TREBLE と BASS の 2 つのトーンコントロールしかありませんが、POD XT では MIDDLE つまみでポストア

ンプ・ミッドレンジコントロールを、PRESENCE はそのまま PRESENCE のコントロールに使用します。MIDDLE を 12 時の位置で、PRESENCE を 0 に設定すれば、クラシックな Deluxe サウンドになります。

Double Verb



ジャズ、カントリー、ロックなどジャンルに問わず愛されたこの Fender Twin (1965 年製の Twin) はまさに「働き者」的なアンプでした。かつて Johnny Winter がピラミッド型に 6 台の Fender Twin をスタックし、コンサートの 2 階席の後ろでもホントに大きなサウンドが届いていたことを記憶しています。トーンコントロールの幅広さと様々なシチュエーションに対応できる柔軟性を兼ね備えています。

Two-Tone



Valco/Supro デザインによるアンプ、それが Gretsch6156 です。興味深い点は出力トランスフォーマが、アンプのシャーシではなく 10 インチスピーカーユニットに直接マウントされていた点です。デザインもとても斬新で、当時としては近未来的なものでした (50 年代では...)

Hiway 100



Hiwatt DR-103 をベースにデザインされたのがこの Hiway 100。独特のパンチのあるサウンドは、歪み時でもはっきりとした輪郭をキープします。これこそ Dave Reeves 氏が求めていたトーンです。当初は Vox や Selmer アンプのデザインの名残を帯びていたデザインも、後に 60 年代のブリットロックファンにとって馴染み深い現在のデザインへと移行したのです。戦車のような構造で知られています。Pete Townshend が選んだ 1 台なのも分かるような気がします。

Plexi 45



65 年代のブロック体で刻まれた Marshall ロゴは、後に筆記体の Marshall ロゴへと変貌を遂げま

す。この POD XT はブロック体時代の JTM-45 ヘッドアンプをモデルにしています。モデルになったこのアンプにはオリジナルの KT-66 が搭載されていました（それもまだ現役）。

Plexi Lead 100



悪名高き 68 年製 Marshall “Plexi” Super Lead。このアンプが製造されるころには、Marshall アンプの回路は Fender 6L6 パワーチューブ回路から完全に離れ、EL34 に移行していました。トーンの変化に影響を与えたもう一つの要因は、出力/パワーサブライトランスフォーマの変更でした。そしてトーンコントロールが付け足されました。当時のギターアンプにはマスターボリュームコントロールがついていなかったもので、Super Lead 特有の「あの音」を出すには、ボリュームを最大に上げなければなりません。Jimi Hendrix はこの時代の Marshall を使い、時代が変わった後にも Van Halen が最初の 2 枚のアルバムで使用していました。本当であれば Marshall Plexi のコントロールを全て 10 まで上げなければならないところ、POD XT によりほぼ完璧な Plexi サウンドを簡単に得ることが可能になりました。

Plexi Jump Lead



ギターを弾くことは常に実験に続く実験。とくに手元にあるギアを使用していかにより良い歪みを得るかもそのうちでしょう。

Plexiで出来るトリックは、短いジャンパーケーブルで channel I と channel II を接続し、少し多めにサチュレーションを得ます。このサウンドが気に入ってしまい、アンプシャーシを開けて内部配線にジャンパーを直接作ってしまう人もいたようです。

このジャンパーセッティングをこよなく愛する私達は、どうしても POD XT でこのモデルを創りあげてしまいました。

Plexi Variac



これこそ伝説。Edward Van Halen の産み出した「ブラウン・サウンド」は、100W の Super Lead

を故意にもっと高い電圧で鳴らして出たサウンドだと言われています。その時に使用されたのが、可変式 AC トランスフォーマ（通称 Variac）という事です。高電圧でアンプを鳴らすような実験は推奨できないため、その代わりに私達の実験室で 68 年製 Super Lead を AC140V に接続し実験しました（心配ご無用、その Super Lead は生き残り、いまだ現役です）。伝説はまんざら嘘ではなかったようです。

Brit J-800



世界中で賞賛を得た JCM800 のサウンドはこの Brit J-800 で蘇ります。Plexi のアップデート版は Marshall の「遺産」を継承し、さらにゲインとエッジを次世代のロックギタリストのために追加しています。トーンコントロールがプリアンプチューブ後に位置しているのも変更後の特徴です。JCM800 の中には、ダイオードを切断することで偶然歪みを得られるバージョンもあります。モデルとして使用したアンプは真空管を使った歪みです。JCM 800 は、Marshall が有名になったいわゆる「メタルサウンド」です。Marshall アンプをクリーントーンで使用する人は少ないようですが、実際には素晴らしいトーンであることも忘れないで下さい。ぜひローゲインセッティングでこの Brit J-800 を試して下さい。

Brit JM Pre



Marshall 初のラックマウント式プリアンプ、JMP-1。メタル系ギタリストの定番ですが、タイトでサチュレーションを求めているミュージシャンにもお勧めです。MIDI 対応プリアンプとしても草分け的存在でした。

JMP のオーバードライブ・テイストは、どちらかと言えば Mesa Boogie 的でした。ADA MP-1 や Mesa Boogie プリアンプへの Marshall バージョンといった感じでしょう。90 年代前半にリリースされたものの、タイトでアグレッシブなトーンを求めている新生メタル系ギタリストの間で人気再燃といった感じです。つまり 7 弦ギターメタルに相性の良いサウンドがこの Brit JM Pre です。

Match Chief



Matchless Chieftain を吟味し、この Match Chief が生まれました。Matchless は EL-34 を使用した Modern Class A デザイン仕様でとてもユニークなサウンドです（綿密な EQ 構造もこのサウンドの特徴です）。

The Chieftain は Mark Sampson 氏によってデザインされ、Fender/Marshall タイプのフロントエンドとクラシックでいて反応のよい Class A パワーセクションをブレンド。

DC-30（次に紹介されるアンプモデル）よりもゲインが高く、ルーツロック的なサウンドに最適なアンプです。実際の The Chieftain 本体のロゴはセクシーの点灯しますが、サウンドには影響ないようです…。でもカッコいいことには変わりありません。

Matchless が倒産した時（悲しい話です...）The Chieftain と DC-30 はコレクターズアイテムとして市場に出回り、当初の価格よりも何千ドルも高い値がつけられていました。POD XT では、そんな価値の高い Matchless の遺産を取り込んでみました。

Match D-30



モデルとなった Matchless D-30 は、Matchless ブランドを有名にした一台です。戦車のようなデザインで（重量も同様に戦車級）、DC-30 は初期の Vox アンプへのトリビュートでもあります。Vox AC-30 がお気に入りのアンプであれば、この POD XT 版 D-30 もチェックする価値があるでしょう。

Recto Dual



Mesa Boogie Dual Rectifier Solo Head をベースにしたトーン。Dual Rectifier は Boogie アンプの中では比較的モダンでハイゲインな一台で、メタル系サウンドに適しています。Boogie の初期のモデルと比べると、Dual Rectifier のトーンは、ハイゲインセッティングのコントロールに有効で、ミッドを抑えてベースを持ち上げることも出来ます。

この Recto Dual は、Channel 3 で、リアスイッチを Bold と Tube Rectifier にそれぞれ切り替えた状態のサウンドをベースにしています。

Cali Crunch



Mesa Boogie Mark II c+をベースにデザイン。Mesa Engineering はRandoll Smith 氏と共に、San Francisco 湾周辺のミュージシャンを相手にし、オールドの Fender Princeton アンプにより馬力を与えることからスタートしました。長年の研究の末、エフェクトループ、切替スイッチ付きチャンネル、Randoll の Simul-Class A デザインを追加し、アンプは進化しました。出力チューブのペアが Class AB、もう一つのペアが Class A に使用されています。コンパクトなボディーにパワーを求めていた多くのギタリストに認められた最初のモダンギターアンプと言えるでしょう。この Cali Crunch には、Drive チャンネルをモデルにしています。

Jazz Clean



このアンプモデルは Roland クラシック JC-120 を元に作られました。このトランジスタ・アンプは鋭くクリーンなサウンドと、内蔵ステレオ・コーラスで知られています。TREBLE を最大レベルに上げ、どんなミックスでも際立つ限界までクリーンなサウンドを堪能してください。またこのアンプモデルは 80 年代の「ニューウェーブ」サウンドとも好相性です。より音調の低いジャズ・トーンでは、全てのトーン・コントロールを 12 時に設定してください。ジャズ・コード・メロディーやシングル・ライン・フレーズ用のフレットボードに均一なトーンを作り出すことができます。

Solo100



このアンプモデルは Soldano SLO-100 ヘッドを元に作られました。
Mke Soldano 氏は Marshall ギターアンプをクールに活用する達人として脚光を浴びました。まもなく自作の hot-rod アンプを作成し、クロームのトランスとシャーシがトレードマークになりました。彼の作るアンプはその防弾構造と軍仕様の配線、部品でも有名です。
SLO-100 はハイ・ゲインで知られていますが、素晴らしくクリーンな音も堪能できます。Eric Clapton も「Saturday Night Live」で SLO-100 を使用しています。

Super O



このアンプモデルは伝説となっています。Jimmy Page が Led Zeppelin のファースト、セカンド・アルバムを '58 Tele and a Supro amp で収録したと語ったとき、ファンが質屋や楽器店に押し寄せ、Supro アンプを買い占めてしまいました。問題は Jimmy Page がどの Supro モデルを使用していたか把握していなかったということです。

我々は「Led Zeppelin II」の収録現場に居合わせた友人に詰問し、どのアンプが使用されていたか聞き出そうとしました。彼らも正確なモデル・ナンバーは記憶しておらず、「グレーとシルバーの小さなアンプだった」という答えしか返ってきませんでした。別の筋では 1×12 インチ・バージョンだと言います。よって Page 本人が証言するまで伝説のアンプは謎のままですが、我々は Supro S6616 モデルこそ、彼を樂神としたアンプと睨んでいます。

S6616 にはカーステレオと同じ、6×9 インチのスピーカーが搭載されています。

Class A-15



これも Vox にインスピレーションを得たアンプモデルです。このモデルは 1960 AC15 のチャンネル 1 を元に作られています。その音質は Vox AC30 に似ていますが、AC15 は AC30 より小さなモデル（12 インチ・スピーカーが 2 台ではなく 1 台搭載）です。そのサウンドはより温かみがあり、木管的です。

オリジナル・アンプのトーン・コントロールは 1 つ（トレブル・カット）しかありませんでした。

PODXT ではトレブル・カットのほかにポスト・アンプ・モデル・ベースと中域コンツアーを追加しました。BASS および MIDDLE をニュートラル（12 時の位置か、その半分）に設定してください。次に PRESENCE を 0 に設定し、TREBLE を好みのサウンドに合わせて調節します。AC15 のモデリングに当り、我々は入力 2 にプラグインして研究しました。入力 2 は入力 1 に比べ若干音調が低く、AC15 サウンドに独特の温かみが増します。

Class A-30 TB



音楽が変換期を迎えていた 60 年代初期、ギタリストは twang など、強烈なサウンドを求めていました。彼らの要望に応える為、Vox アンプのメーカーである Jennigs Company は旧来の Treble Cut ツマミに加え、Treble and Bass コントロール（同時に 12AX7 ゲイン・ステージを強化）を追加しました。Treble Cut ツマミの実体はスライディング・バンドパス・フィルターでした。新しく追加された回路は Top Boost として知られています。

Top Boost を搭載した AC30 は多くのプリティッシュ・バンドによって有名になりました。Vox サウンドのユニークさは、Class A アンプのオーバードライブが Class AB とは異なるエフェクトを生み出すことに集約されます。Queen の Brian May、Tom Petty's Heartbreakers の Mike Campbell、U2 の Edge といった著名なミュージシャンがクラシック AC30 を活用しています。AC30 のサウンドは通常クリーンですが、クランクしたサウンドも素晴らしいリード・トーンを生み出します。このアンプモデルでは、PODXT の MIDDLE コントロールが、AC30 の CUT ツマミの役割を果たします。

このモデルでは、チャンネルのハイ・ゲイン入力を使用しました。またトーン・コントロールも反転させました。理由はオリジナルの Top Boost アンプのツマミが最低レベルのとき、BASS および TREBLE が最高レベルになるからです。

Tube Preamp

これはキーボード、ドラム、ボーカルなどのウォーミングアップ用として使用できます。例えば、「ボーカルにもっとエッジが欲しい」のであれば、ボーカルトラックを POD XT に通して見て下さい。シンセベースを接続し、Drive と EQ を持ち上げて好みのサウンドに仕上げて下さい。ベース用のダイレクトボックスとしても有効です。Drive コントロールをミキサーのつまみの様に使用し、必要なサウンドが得られるように調節します。トーンコントロールを 12 時の位置にし、EQ がフラットな状態になります。

Cabinet Models

CAB/A.I.R.ボタンを押し EFFECT TWEAK ツマミを回すと、以下のキャビネット・モデルが選択できます。

Cabinet Model	Based On...
1x6 Super O	6x9 Supro S6616
1x8 Tweed	1961 Fender Tweed Champ
1x10 Gibtone	1x10 Gibson
1x10 G-Brand	Gretsch 6156
1x12 Line 6	Line 6 1x12
1x12 Tweed	1953 Fender Tweed Deluxe
1x12 Blackface	1964 Fender Blackface Deluxe
1x12 Class A	1960 Vox AC-15
2x2 Mini T	2x2" Fender Mini Twin
2x12 Line 6	Line 6 2x12
2x12 Blackface	1965 Fender Blackface Twin
2x12 Match	1995 Matchless Chieftain
2x12 Jazz	Roland JC-120
2x12 Class A	1967 Vox AC-30
4x10 Line 6	Line 6 4x10
4x10 Tweed	1959 Fender Bassman
4x12 Line 6	Line 6 4x12
4x12 Green 20's	1967 Marshall Basketweave with Greenbacks
4x12 Green 25's	1968 Marshall Basketweave with Greenbacks
4x12 Celest T-75	1978 Marshall with stock 70s
4x12 Celest V-30	1996 Marshall with Vintage 30s
4x12 Recto	4x12 Mesa Boogie
No Cab	You will probably want to use this Cabinet model with the Tube Preamp model for non-guitar sources. It is selected by default when you pull up the Tube Preamp Amp Model.

STOMP BOX & EFFECT

STOMPBOX (コンパクトエフェクター) について

POD XT には、Line6 の DM4 Distortion Modeler、MM4 Modulation Modeler、DL4 Delay Modeler と Vetta からの優れたストンプボックス・エフェクト群が数多く搭載されています。その他 Ping Pong や Stereo Delay も入っています。

この章では、POD XT ストンプボックスの紹介をします。

Basic Effect Editing

POD XT には、探し集めた Stomp Box コレクションがフューチャーされています。Amp Model を

組み合わせて、コンパクトエフェクター感覚での On/Off 切替も出来ます。FBV FBV ショートボードフットコントローラを接続すれば、ハンズフリーでのコントロールも可能。パラメータ調整は、コンピュータ接続なしにすべて可能です。エフェクトに On/Off はディスプレイ上部にある Effect On/Off ボタンで簡単に切替できます。

Effect On/Off には、以下の 4 つのボタンがあります。

Comp (Gate) : LA-2A コンプレッサーの On/Off を行います。2 回押すとコンプレッサー設定の編集が出来ます。さらに Noise Gate としても機能します。

Stomp : POD XT の歪み・ボックス/ストンプボックス・コンプレッサーはこのボタンで On/Off 切替します。2 回押すと Edit になります。

Mod : POD XT にはモジュレーションエフェクトも搭載されています。このボタンで On/Off 切替を行い、2 回押すと Edit になります。

Delay : デレイモデルはここに操作します。このボタンで On/Off 切替を行い、2 回押すと Edit になります。

Deep Dive Editing

PODXT のストンプボックス、エフェクターは編集操作が似通っています。詳細は 4 章 Creating & Storing Sounds を参照ください。ここでは 2 種類の基本編集操作を説明します。

エフェクトのパラメーター変更方法

A.EDIT ボタンを押します。対 g に SELECT ツマミを回してページを検索し、変更したいパラメーターを表示します。

B.EFFECT の ON/OFF ボタンをダブルクリックします。エフェクトの 1 ページが表示されます。

Stomp Effects: Distortions and Overdrives

ファズボックスや歪み、オーバードライブのなかった時代、そのひずんだ音を出す為にギタリストたちは剃刀でスピーカーを削ったりしたものでした。結果としてサウンドは素晴らしかったものの、同じギターでバラードを演奏することは出来なくなってしまいました。

そうしてファズボックスが登場しました。伝説によると、最初のファズボックスが作られた目的は、欠陥ミキサーの音を再現するためだったといえます。この話の真否はさておき、まもなく誰もが歪みによって「Satisfaction」を経験できるようになりました。

Stomp Effects: Compressors

コンプレッサーは音量が大きなサウンドと小さなサウンドを均一にそろえます。従ってギターの音声信号を一定期間ブーストし、ギターの音が長く響くように設定可能です。言葉を代えれば、ストンプボックス・コンプレッサーをアンプの前面に配置すれば、即席のサステイン・エンハンサーの完成です。その他の利点として、コンプレッサーを使えばアタックを均一にし、損なわれたゲインを補充することが出来ます。よってアンプのフロント・エンドをより激しくヒットしながらも、アンプ前で過剰な歪みが発生するのを防ぐことが可能です（歪み・ボックスではアンプへの入力レベルを上げると過剰な歪みが起こりやすい）。PODXT では多数のストンプボックス・コンプレッションを搭載しました。

Comp/Gate Effects

COMP (GATE) ボタン操作で使用可能なコンプレッサー・エフェクトはレコーディング・スタジオできるようにサウンド・レベルを滑らかにしたいとき、是非使ってみてください。THRES (スレッシュホールド) ツマミで設定するのは、コンプレッサーが信号を均一にする敷居です。スレッシュホールド設定の数値が低いほど、信号レベルの抑制がより強くなります。つまり -32dB の方が -16dB より抑制レベルの強い設定となります。GAIN ツマミを操作することにより、コンプレッサーによって低くなった全体の音声レベルを下げる事が出来ます。



Gate エフェクトは、演奏していないときに発生するヒス・ノイズを削減します。THRES ツマミによって Gate が削除するノイズのレベル、ノイズに反応する速さを設定します。設定数値が低いほど、Gate エフェクト自体のノイズに対する抑制レベルは強くなります。Gate を解除するには、THRES ツマミを最小レベルに設定してください。DECAY ツマミを使って Gate が作動する早さを設定できます。DECAY を高く設定すると、音が尻切れになるのを防止します。ただし Gate が作動する前のヒス・ノイズが強くなってしまふ欠点があります。

Modulation Effects

モジュレーション・エフェクトとは、フェーズ・シフターやフランジャー、コーラスのような噴射音や脈動音、心音のことです。なぜモジュレーション・エフェクトと呼ばれているのでしょうか？ Oxford 百科事典によると、MODULATE の電子工学分野での意味は、「振幅や周波数特性をより低周波の波動を使って変換すること」です。

モジュレーション・エフェクトに関しては、SPEED、DEPTH コントロールがあります。SPEED はモジュレーション波形がスイープする速さを設定します。一方 DEPTH コントロールはモジュレーション波形の振幅を設定します。つまり、エフェクトの強さ DEPTH コントロールで設定されます。他にも MIX コントロールなどのコントロールがあります。

Tap Tempo

PODXT のディレイおよび MOD エフェクトの多くは、SPEED や DELAY タイムを演奏する音楽のテンポの合わせられることが強みです。音楽のビートに合わせて PODXT の TAP ボタンや、FBV の TAP スイッチを押すことで、テンポが合わせられます。スイッチを押すのはたったの 2 回です。

特定のエフェクトを Tap Tempo にあわせるには、EFFECT TWEAK ツマミを回して SPEED または DELAY TIME を最小レベルに合わせてください。また 20 ミリ秒のディレイが可能です。音符は全てディスプレイ上に表示されます。4 分音が表示されるまで、ページを検索してください。ここで Tap Tempo を 2 回軽くたたくと、ディレイ・タイムがタップした通り設定されたのが分かるはずです。ディレイ TIME を 2 分音符に設定すると、ディレイは 4 分音符に設定したときより倍遅くなります。

Tap Tempo で MOD スピードを設定するのも DELAY TIME 設定と同じです。MOD エフェクトの SPEED パラメーターを選択し、EFFECT TWEAK ツマミを最小レベルに下げます。SPEED を設定すべき音符が表示されたら、PODXT の TAP ボタンを軽くたたいてください。

次の画面は TIME 設定用の音符が表示された画面です。



テンポを Tap Tempo で設定したくない場合は EDIT ボタンを押し（既に点灯していれば押す必要なし）SELECT ツマミを回して EDIT の最後のページを出してください。ここで TEMPO パラメーターを調節できます。現在選択されたチャンネルの一分間あたりのビートが表示されており、この設定を保存すれば、チャンネル内のエフェクトが同一テンポに従って実行されます。

Reverb

PODXT の開発にあたって、特に力を注いだのが完璧なリバーブ・エフェクトの開発です。PODXT のリバーブ・モデルは優れた音響環境、プレート・リバーブ（スピーカーが付属した鋼製の巨大プレート、+プレートの振動を拾う為の複数のピックアップ）、スプリング・リバーブに匹敵するエフェクトを誇ります。また全く新しいオリジナルのリバーブ・モデルも搭載されています。

Springs

音の伸びのいいスプリング・リバーブ・シリーズです。

Lux Spring

Fender Deluxe アンプシリーズに搭載されていた、2 系統のスプリング・リバーブ・タンクをモデルとしています。

Standard Spring

Fender Twin Reverb が長年愛された理由には、その豊かで密度の高いリバーブ・タンク・サウンドにあります。3 スプリング・タンクは初期の Fender モデルに搭載されたスプリング・リバーブより、数段複雑なサウンドを生み出しました。

King Spring

Sealy Posturepedic にインスピレーションを受けた Line6 のオリジナルです。より豊かで、密度の高い、ダイナミックな音が楽しめます。

Rooms

ここ数年、レコーディング・エンジニアは階段、廊下、地下室など、あらゆる空間をリバーブ・ルームに仕立て上げてきました。PODXT でも多彩な音響ルームを搭載しています。

Small Room

昔はデジタル・リバーブのようなものはありません。録音する音に空間を持たせたいと考えた人々は、音が跳ね返る大きながらんだりの部屋を使うことを思いつきました。そこにスピーカー置き、空間を持たせたい音を再生し、跳ね返る音をマイク收音します。そうして収録した空気感を元々の音楽をミックスしたのです。初期のリバーブ・ルームはスタジオによって性質が異なっており、スタジオの評判はリバーブ・サウンドによって決まるほどでした。PODXT の Small Room モデルは、60 年代の中規模スタジオにおける典型的なリバーブ・サウンドを再現しています。

Tiled Room

広いバスルームでギターを録音するような音が得られます。初期のレコーディングでは、サックス・プレイヤーを実際にバスルームで録音させたものでした。

Brite Room

どんなギター・トラックにもあうリバーブ・ルームです。

Halls

リビングと寝室を繋ぐ通路のことではありません。音響スペースのことです。

Dark Hall

反響音の強い大規模コンサートホールです。リバーブのバックドロップが膨大なときに使用するのが理想的です。リバーブレベルを最高に設定しても、音質が損なわれません。

Medium Hall

反響音の強い中規模のホールです。リバーブが際立ちます。

Large Hall

大規模コンサートホールです。これが最大のリバーブ・レベルです。

Rich Chamber

クラッチ・トーンを更に強調するリッチなルームです。

Chamber

典型的なスタジオ・ルームです。どんなリバーブとも好相性です。

Cavernous

Dandelion dreams

Plates

プレート・リバーブは機械的なリバーブの原始的なモデルです。基本的にはスピーカーが鋼製のプレートもしくは金箔を震わせ、複数のピックアップがプレートの振動を拾うという設計でした。

Slap Plate

このリバーブは Sam Phillip の Sun Studios 収録作品など、初期のロックンロールの雰囲気によく合います。

Vintage Plate

古典的プレート・リバーブです。

Large Plate

録音した曲を繰り返し再生する場合に適したプレート・モデルです。雑音をきれいに取り除きます。

The Stomp Effects - Facial Fuzz



1966年ロンドンのミュージック・シーンを圧巻したのがこの円形ストンプ・ボックスです。Arbiter Musicによって制作された Fuzz Face は、伝説的ギタリスト Jimi Hendrix が愛用したことで広く知られています。

初期のストンプボックスに良くあるように、Fuzz Face のデザインは幾度も更新されています。PODXT でモデリングしたのはゲルマニウム・ダイオード稼働の、一番古いバージョン(写真)です。

Fuzz Pi



イギリス人に引けを取らないよう、アメリカが作り出した偉大なファズ・ボックスです。Electro-Harmonix 社の Mike Mathews 氏率いるエンジニアが歪み/ファズ・ボックスに注意を向けたとき、あらゆるエフェクトに関するアイデアを練っていました。そうして誕生した商品群で抜群の人気を誇るのが、buzz よりも美しいサステインで知られる Big Muff Pi です。

Electro-Harmonix は余剰パーツを活用することで有名で、そのために商品の回路設計、パーツ・スペックがたびたび変わってしまっています。写真を見ても分かるように、Big Muffi Pi にも数多くのモデル・チェンジがありました。PODXT でモデリングしたのは写真中央にある、通称「トライアングル・ノブ・パターン」です。

Screamer



Stevie Ray Vaughan から Michael Landau まで、ブルース界で幅広い愛用者をもつのが Ibanez の Tube Screamer です。80 年代初期に発売されたこのミディアム・ゲイン・ペダルなしではブルース・ソロは歌えません。この 20 年にわたって Ibanez 社では Tube Screamer の類似商品を発売しましたが、伝説的なモデルである TS-808 のレベルに到達したものはありません。808s のどれをモデリングするかについて散々頭を悩ませましたが、私たちの選択にお客様も納得されるはずです。

Classic Distortion



70 年代後半に誕生した ProCo Rat は新世代の歪み・ボックスの先駆けでした。Fuzz よりもハードで攻撃的なサウンドをもった Rat は、ミュージック・シーンに踊り出たばかりのヘヴィーメタルに大きな武器を与えました。

Rat には生産完了までいくつかのモデル・チェンジが行われました。その音質のよさで誰もが選んだのが、上の写真に写っているオリジナル版です。これら 2 種類の Rat は同じボード、回路を活用しています。私たちがモデリングしたのは小さい方の Rat です。

PODXT RAT モデルの TONE ツマミは Rat オリジナル版の「Filter」コントロールの役目を果たします。つまり TONE を低く設定すると音質が高くなり、高く設定すると音質が低くなります。

Octave Fuzz



Tycobrahe の Octavia は fuzz + オクターブ・エフェクトの見本です。このタイプのエフェクトを發明したエンジニアは Jimi Hendrix 氏でした。Octave Fuzz を愛用したミュージシャンには Jeff Beck、Michael Landau が挙げられます。

Octavia のハイ・オクターブ・エフェクトを可能にするのは、搭載されたオーディオ出力トランスとゲルマニウム・ダイオード×2です。今回 PODXT にモデリングしたのは美しい音質のオリジナル版(画像)です。

BASS、MID および TREBLE を時計の正午の位置に設定すると、この Octave Fuzz のエフェクトが楽しめます。

Blue Comp



コンプレッサー・ストンプボックスの人気に乗って ROLAND と BOSS が発売したのが CS-1 Compression Sustainer です。CS-1 には固定の比率があるので、PODXT の CS-1 にも SUSTAIN コントロールが搭載されています。このコントロールでコンプレッサー回路のスレッシュホールドを調節可能です。

Red Comp



最も愛用されている標準的ストンプボックス・コンプレッサーです。MXR Dynacomp のコンプレッション比率は固定されており、スレッシュホールド、ゲインは調節可能です。SUSTAIN ツマミでコンプレッション・スレッシュホールドを調節し、LEVEL ツマミでレベルを設定してください。

Auto Wah



フィルターマニアにとって欠かせないのが Mu-Tron III エンベロープ・フォロワーです。Auto-wah と Triggered Filter を兼ね備えたモデルです。SENS ツマミで演奏に対するフィルターの反応を調節し、Q でフィルターの幅を設定します。

Vetta Comp

Line6 オリジナルの商品である Vetta Comp の比率は固定 (2.35 : 1) されています。スレッシュホールドは -9dB から -56dB の間で調節可能 (SENS ツマミで調節) です。また LEVEL ツマミの調節で最大 12dB のゲインが使用できます。つまり、SENS ツマミを使って信号のコンプレッションレベルを調節し、LEVEL ツマミで音量を設定します。

Auto Swell

比率およびスレッシュホールドが固定で、ゲインがユニティに設定されており、アタックによる爆発的な音量が調整可能なコンプレッサーと言え、Auto Swell です。RAMP タイムを起動し、いわゆる「斜行した」アタックを簡単に加えることができます。この種のアタックは本来、ピック・アタックの度にギターのリリューム・ノブを操作しなければ得られません。ディレイやリバースと組み合わせ、RAMP タイムを長く設定すると、様々なコードを作り出すことができます。また RAMP タイムの調節で Swell が発生するまでにかかる時間を設定したり、どれほどの音量がアタックから削られるかを DEPTH で設定することができます。

The Modulation Effects

Sine Chorus

基本的なデジタル・コーラス (アナログの CE-1 モデルとは対照的なモデル) であり、モジュレーターとして正弦波が付属しています。BASS および TREBLE コントロールでスムーズな音程調整が可能です。

Flanger

Line6 オリジナルのフランジャー機能「Expo」は「Exponential」を意味します。Expo を使用するとフランジングのスイープがより swooshy になります。FEEDBACK および PRE-DELAY ツマミを使うと、Expo エフェクトを制限したり、好きなだけ拡大することも出来ます。

Opto Trem

'64 Deluxe や '65 Twin Reverb など Fender 製アンプに搭載されたオプティカル・トレモロ回路を基に作られたモデルです。回路はライトバルブと光導電セルで成り立っており、ライトの光が強くなるほどトレモロの音量が大きくなります。Fender オリジナルのアンプモデルと合わせて使いたいエフェクトです。

Bias Trem

Rube Goldberg 技術の決定版である Old Vox Tremoro がパワーアンプ真空管のバイアスを変更することによって息を吹き返しました。バイアスを使用するとアンプ出力真空管の寿命を縮めてしまいますが、Uni-Vibe などフェーズ・シフターのような滑らかな音質が得られます。

Auto Pan

パナーとも呼ばれます。ステレオの左右チャンネルの間を音が行き来するエフェクトが得られます。

Analog Chorus



ストンプボックス・コーラスの元祖である BOSS CE-1 のモデルなしでは、PODXT は完成しません。1977 年に発売された CE-1 はその豊かで暖かく、グルーヴィなサウンドで人気を集めました。最初に Andy Summers が活用し、The Police のクラシックアルバムを通して広く一般に知られるようになりました。CE-1 のコントロールには SPEED、DEPTH のほかにコーラスからビブラート・モードに切り替えるスイッチがあります。CE-1 はゆったりした設計で、歪みのあるアンプに接続すると特に素晴らしいサウンドが得られます。

PODXT の CE-1 モデルは原本と同じくらい温かみがあり、粘っこいサウンドを生み出します。

「オリジナルの CE-1 についていたピッチ・ビブラート・モードはどうしたんだ？」と思われるかもしれませんが、心配無用です。コーラスとは煮詰めればドライ・シグナルとミックスしたピッチ・ビブラートと定義できます。よって CE-1 のビブラート・モード・スイッチが果たしていた役割とは、ドライ・シグナルの削除だけだったのです。PODXT でその機能を得るには、MIX ツマミを 100% WET (最大レベルに上げる) に設定すればよいのです。

Jet Flanger



A/DA 「スタジオ・クワイエット」 Flanger を基に作ったモデルです。1977 年に発売された A/DA の強みはジェット機のようなスイープで、それを可能にしたのが 35 対 1 のスイープ・レンジと内蔵コンプレッサーの組み合わせでした。そのユニークな波形とリング・モジュレーターなみのエフェクトにより、A/DA はドラマティックなサウンドを創造しつづけてきました。PODXT の A/DA Flanger モードでは、DEPTH の下のつまみがスイープ・レンジをコントロールします。FDBK がフィードバック (エフェクターの入力に再送されるエフェクト信号のボリューム) を調節します。フランジング・エフェクトを作り出す為スイープにかけられるディレイの長さを調節するのは、MANUAL ツマミです。

Phaser



控えめなルックスのボックスこそ、世界を買えたフェーザー、MXR Phase90 です。Phase90 は他のフェーザーと比較すると繊細なエフェクトで、単独で目立つエフェクトというよりはギター・トーンの一部と化します。その有機的な魅力をもつサウンドは、Van Halen の第一作、二作目のアルバム、Jimmy Page の Physical Graffiti で頻繁に用いられています。Phase90 は 4 ステージ・フェーザーであり、たった一つ搭載されたつまみがコントロールするのはスピードのみです。PODXT の Phase モデルには MIX ツマミひとつだけが追加されています。

U-Vibe



伝説的製品である Uni-Vibe は 1969 年に Jimi Hendrix によって発明されました。Uni-Vibe は 4 ステージ・フェーズ・シフターであり、その潤いのあるサウンドは「Machine Gun」でも使用されました。

CE-1 モデルのビブラート・モードと同じく、Uni-Vibe のビブラート・スイッチ効果は MIX コントロールを最大レベルに上げることで PODXT でも再現できます。

BASS と TREBLE コントロールを 12 時の位置に設定すれば、Uni-Vibe のサウンドが得られます。またコントロールを調整して好みのサウンドを作り出すことも出来ます。

Rotary Drum + Horn



美しい調度品とクールなトーンを同時にもたらしたのが、Leslie 145 です。真空管によって稼動する巨大なエフェクターの目玉は、高域ホーンと下向きに配置された 15 インチスピーカー、音を分散する為にスピーカーの上を回転するドラムでした。元々Hammond B3 のような電子オルガン用に作られた商品でしたが、そのサウンドを聴いたギタリストやボーカリストをも夢中にさせたのです。PODXT の Rotary Drum + Horn を使えば、腰を痛めることなく Leslie のサウンドが楽しめます。PODXT の SPEED ツマミは Leslie 真空管に付属していた Fast/Slow スイッチの役目を果たします。このエフェクトでは TONE と MIX 設定が可能です。Leslie の元祖スピン効果を堪能するには、MIX ツマミを最大レベルに設定してください。

Rotary Drum



Leslie を愛用するギタリスト向けに Fender が発売したギター専用のトーン・マシンが Vibratone です。12 インチのスピーカーの前に発泡スチロールのバッフルを使い、ボックスのサイドから音が出るようになっています。Vibratone を使用した著名な作品は Stevie Ray Vaughan の「Cold Shot」です。

Vibratone の編集方法は Leslie145 と同じです。

The Delay Effects - Analog Echo



DM-2 のようなアナログ・エコーはテープ・エコーの進化版として発売されました。「バケット・ブリゲード」電子技術により、テープによるディレイよりも格段に正確なエコー・ユニットです。また低電源回路のため、電池駆動が可能となりました。アナログディレイはその温かみのある歪み・サウンドで長年愛用されています。PODXT の DM-2 モデルは、同じサウンドをデジタルで実現します。

Analog w/Mod



Electro-Harmonix Deluxe Memory Man を元に作られたのがこのモードです。Deluxe Memory Man は他のアナログ・エコーの「Bucket Brigade」電子技術を用いるペダルであり、PODXT のモデルでは更にコーラス回路が追加されています。コーラスは調節可能で、エコーのみに適用されます。Memory Man はその温かみのある歪み・サウンドから、多くのギタリストの必須ツールとなりました。U2 の最初のアルバム作成でも活用されています。Deluxe Memory Man のデラックスである所以の一つに、500 ミリ秒のディレイ・タイムがあります。PODXT のアナログ w/Mod モードでは、更に 2 秒のディレイ・タイムが堪能できます。MOD SPEED と DEPTH コントロールを使ってディレイのコーラスを設定するには、ページ 2 を参照ください。

Tube Echo



クラシック 1963Maestro EP-1 は「Echoplex」シリーズの第一作目であり、シカゴの Harris-Teller の手によって誕生しました。Maestro の宣伝にもあるように、Echoplex はハイスピードの反響音から鋭いエコーまで、あらゆるエフェクトを作り出せます。

Echoplex の目玉は、環状の 2.5 インチ・オーディオテープがレコード/プレイバック・ヘッドを包んでいるカートリッジ設計です。プレイバック・ヘッドの位置を変えると、ディレイ・タイムを 60~650 ミリ秒の間で調節可能です。PODXT の EP-1 モデルはディレイ・タイムを 2 秒に拡大し、オリジナルに迫るエフェクトを実現します。

本マニュアル冒頭に FLUT (wow とフラッタ) と Drive コントロールが詳述されています。オリジナルの暖かな真空管サウンドをまねるだけでなく、スリッピングなダーティー・サウンドも堪能できます。

Multi-Head



BOSS ペダルのずっと前に発売された RE-101 Space Echoこそ、Roland 製エフェクター商品の先駆けでした。プレイバック・ヘッドが移動する Echoplex とは対照的に、この商品は複数の固定されたヘッドが搭載されています。これらのヘッドを切り替えることでディレイ・タイムを設定し、更にモーター・スピード・コントロールで微調整を行います。面白いのは、複数のヘッドでプレイバックし、複数のディレイ・エフェクトを同時に楽しめることです。Multi-Head モデルの 4 種類のテープ・ヘッドの組み合わせ方については、本マニュアル冒頭を参照ください。Echoplex EP-1 モデルと同様、FLUT (Wow & Flutter) コントロールも使用できます。

Sweep Echo

Phaze Eko と同様、このモデルは Line6 のオリジナルです。はじめに搭載されたのは DL4 Delay Modeler で、発売以来多くの DL4 ユーザーの好評を頂いてきました。

本マニュアル冒頭では、エフェクトのスイーピング・フィルター部分の Speed および Depth 調整方法について詳述しています。SWEEP SPEED はフィルターがスイープする速度を設定します。SWEEP DEPTH が設定するのはフィルター加工の対象となる周波数特性の幅です。そのエフェクトは微妙にも、極端にも成り得ます。MIX のコントロールには FBV ペダルを使うと良いでしょう。

Digital Delay

このモードは BASS と TREBLE のトーン・コントロールを使用した単純なデジタル・ディレイです。BASS および TREBLE トーン・コントロールの詳細は本マニュアル冒頭を参照ください。

Stereo Delay

U2 による「Where the Streets Have No Name」の素晴らしいサウンドをもたらした張本人は、ステレオ・ディレイです。ステレオ・ディレイは多くの U2 作品で使われています。一サイドをリピートを多く設定したファースト・エコーにし、もう一サイドをリピートを抑えたスロー・ディレイにしてみてください。U2 サウンドの完成です。

Ping Pong Delay



ピンポン・ディレイはポスト・ディレイ・エフェクトとして機能するディレイですが、ストンプボックスとしては機能できません（ピンポン・ディレイはステレオ出力を必要とする為）。分離した 2 系統のディレイ・チャンネルがあり、チャンネル出力が別のチャンネル出力に投入されます。卓球のように、出力が行き来するのです。

1 ページに詳述された TIME ツマミで左側ディレイ・ラインのタイムを設定します。

OFFSET ツマミで、左側ディレイ・タイムの一分割としての、右側ディレイ・タイムを設定します。

次に SPREAD が各ディレイのステレオ・スプレッドを設定します。モノラルはもちろんハード・パン加工されたステレオも選択できます。

この説明を複雑に感じられた方は、とにかく TIME ツマミ（または Tap Tempo ボタン）を使って長いディレイ・タイムを設定し、OFFSET で短いディレイ・タイムを設定してみてください。OFFSET を 12 時に設定した場合、左右のディレイは均一になります。次に SPREAD ツマミを使い、ディレイ・リピートが発生するステレオ・フィールドのポイントを指定してください。

Reverse Delay

リバース・ディレイを使えば、演奏音が逆行して聴こえます。また最大 2 秒間のディレイも活用できます。このエフェクトをより効果的に使う為には、レガートで演奏し、リバース・プレイバックを

出来るだけ無視してみてください。演奏が切れ目なく続くほどクールなりバース・フレーズとなって再生されます。Tom Pretty のギタリスト、Mike Campbell も DM4 Delay Modeler のリバース・ディレイを活用したギター・ソコを披露しています。

リバースを使用する場合、MIX ツマミは最大レベル（100%ウェット）に設定してください。演奏音が全てリバースになります。またディレイ信号だけに適用されるコーラス機能を追加しました。

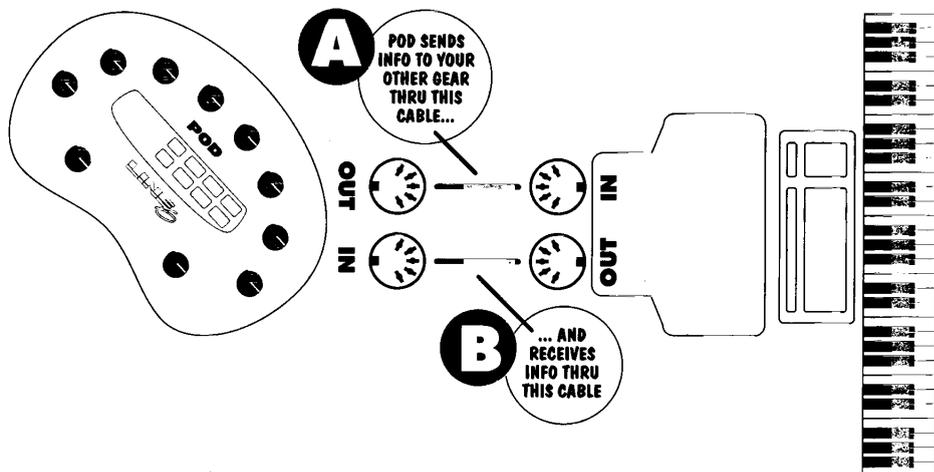
Deep Editing & MIDI Control

MIDI Basics

What's MIDI? MIDI (Musical Instrument Digital Interface) はミュージック・マシーン間のデータをやりとりするための通信プロトコルです。MIDI によりあるデバイスを他のデバイスからコントロールしたり、複数台の機器を連結して使用することができます。

In/Out

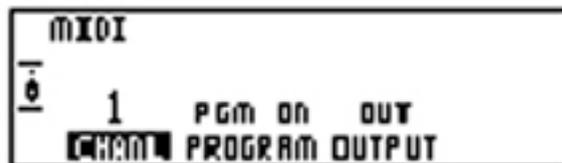
PODXT には 2 つの MIDI 端子が付いています：In/Out。MIDI ケーブルを使って MIDI 機器と PODXT を接続します。それぞれの接続は一方通行になっています：データは 1 台の機器のアウトからもう 1 台の機器のインへ送られます。またデータを受信することも出来ますが、その場合は、もう 1 本ケーブルを接続してインからアウトに接続します。



MIDI Channel

MIDI は 1 本の MIDI ケーブルを通して 16 チャンネルの情報を送受信します。MIDI ケーブルのチャンネルはプログラムが保存されている PODXT のチャンネルとは異なります。

PODXT を（テレビのチャンネルを合わせるように）特定の MIDI チャンネルに設定します。その際 PODXT がデータを受信すべきデバイスも、PODXT と同じ MIDI チャンネルにデータを送信していることを確認してください。PODXT の MIDI チャンネルを設定するには、TUNER ボタンを押してください（ON にするとボタンが点灯します）。SELECT ツマミを回し、次の画面を出してください。



Channel : CHANL の下のボタンを押し、EFFECT TWEAK を回して MIDI チャンネルを変更します。1~16 チャンネルから選択してください。また OMNI を選択すると、全ての MIDI チャンネルからデータを受信することになります。

Program Change : PODXT は受信する MIDI メッセージを処理すること (PGM ON) も、無視すること (PGM OFF) も可能です。または受信したプログラム変更を、MIDI 出力設定 (PGM ECHO) にかかわらずパスすることも出来ます。

Output : PODXT の MIDI 出力端子は、OUT 設定時のみ、内部で作成した MIDI メッセージを送信します。MIDI 出力端子は MIDI Thru として利用することも可能です。OUTPUT を Thru に設定すると、PODXT から MIDI メッセージが出力されなくなります。その代わりに、MIDI IN に受信したデータを全て MIDI OUT に出力します。よって PODXT が受信した信号を全て他の MIDI 対応デバイスで受け取ることが出来ます。Thru モードの場合、MIDI OUT は単に MIDI IN で受信したデータを転送するだけで、PODXT の MIDI メッセージと受信 MIDI データをミックスしたりしません。

MIDI Messages

MIDI は種類の異なるメッセージを、異なる目的に合わせて送ることができます。

MIDI Program Changes : プログラム変更のメッセージは設定や音色の変更を機器に送ります。PODXT において、プログラム変更は一つのチャンネル・メモリから別のチャンネル・メモリを変更します。PODXT にプログラム変更 NO1 を行った場合、バンク 1、チャンネル A が選択されます。プログラム変更 NO 2 を行った場合、バンク 1、チャンネル B が選択されます。Appendix B に詳細が図解されています。

MIDI Controllers : MIDI コントローラーのメッセージはリアルタイムで外部機器のパラメーターをコントロールする事ができます。例えば、MIDI コントローラーを使用して PODXT Drive コントロールの設定を変えたり、リバブ・レベルを変更したりすることができます。それぞれの PODXT のパラメーターは MIDI コントローラーへマッピングされる為、PODXT の全てのコントロールを行う事ができます。Appendix C に PODXT のパラメーターとコントローラーに関する詳細が記載されています。FBV および FBV ショートボードのワウとボリューム・ペダルも MIDI 経由で MIDI コントローラーのメッセージを送信します。MIDI 経由でパラメーターのコントロールを変更する際に、ノイズを最小限に押さえる為に PODXT のセッティングをゆっくりと変えるようにして下さい。

MIDI Sysex Commands : Sysex = SystemExclusive。システム・エクスクルーシブ・メッセージとは、あるデバイス固有のメッセージを意味します。Sysex は他の機器のメモリーにプログラムされたサウンドを送信したり、機器から新しいサウンドを受け取ります。このデータの交換は“ダンプ”と言われています。

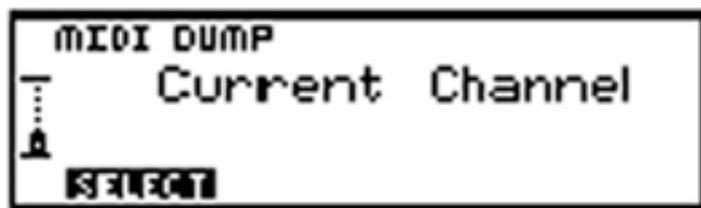
Backing up PODXT Programs to Other Devices

PODXT の保存データが万が一消去されてしまう危険を考え、定期的にバックアップを行うことをお勧めします。PODXT のデータを MIDI デバイス (MIDI ファイル・プレイヤーやハードウェア・シーケンサー、キーボード・ワークステーションなど) に転送し、バックアップを行う場合、手順は PODXT 同士のデータ転送と極めて似ています。まず標準 MIDI ケーブルを用意してください。

PODXT の MIDI OUT をデータ送信先デバイスの MIDI IN に接続します。次に TUNER ボタンを押してボタンが点灯するのを確認し、SELECT を回して MIDI ページを開きます。このとき PODXT が選択中の MIDI チャンネルが、データ送信先 MIDI デバイスの選択チャンネルと同じであることを確認してください。

Transferring All Channels : PODXT の全プリセット (全チャンネル) を MIDI 信号として外部デバイスに送信します。SAVE ボタンを一回押し、SELECT ツマミを回して次の画面を出し

ます。

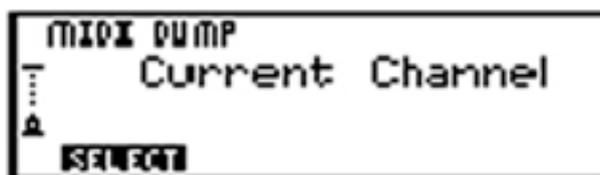


次に SELECT の下にあるボタンを押し、EFFECT TWEAK を左に回し、次の画面を出してください。

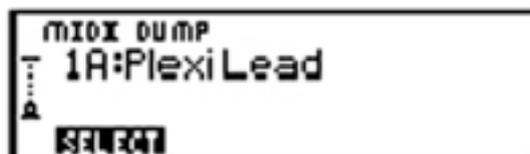


SAVE をもう一度押すと、データ転送が始まります。

Transferring Some Data : 特定のチャンネルメモリーやエフェクト・セットアップ、アンプモデルのみを MIDI データとして転送したい場合、次の手順に従ってください。
SAVE ボタンを一回押し、SELECT ツマミを回して次の画面を出します。



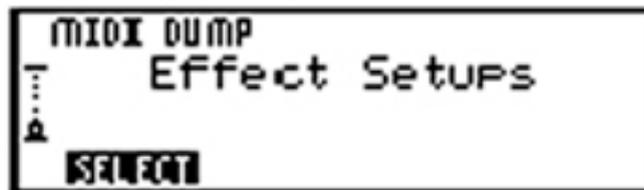
次に SELECT の下のボタンを押し、EFFECT TWEAK ツマミで転送したいチャンネルメモリー、アンプ・モデル、エフェクト・セットアップのいずれかを選択してください。
チャンネルメモリー



アンプモデル (カスタマイズしたものも含めて)



エフェクト・セットアップ(カスタマイズしたものも含めて)
SAVE をもう一度押すと、転送が始まります。



Other Things You Can Do with MIDI

Changing PODXT Channels With MIDI Program Changes :

MIDI 経由で行う基本的な事はチャンネル変更です。MIDI プログラムの変更メッセージを送る他の機器やフットコントローラーを使って変更を行うこともできます。フットコントロールの MIDI アウトを PODXT の MIDI インに接続して、両方の MIDI チャンネルが同じになるように設定します。フットコントロールの各プログラム # が選択する PODXT のチャンネルに関しては、Appendix B に一覧されています。マニュアル・モードとチューナーは MIDI プログラム・メッセージで設定することができます。また MIDI プログラム変更メッセージを MIDI シーケンサーから PODXT へ送信し、シーケンサーの同期信号で自動的に PODXT サウンドを変える事も可能です。MIDI 経由でパラメーターのコントロールを変更する際に、ノイズを最小限にする為に PODXT の設定はゆっくりと変更してください。

Tweaking PODXT Tones with MIDI Controllers :

MIDI フェーダーボックス付 MIDI コントローラー、及び MIDI シーケンサーをお持ちでしたら、全ての PODXT パラメーターを MIDI によってコントロールすることができます。Appendix C は、MIDI コントローラーと操作可能な PODXT パラメーターの対応です。PODXT と MIDI コントローラーを最初にセットアップする際、MIDI チャンネルを正しく設定するよう注意してください。

Full MIDI Automation of PODXT : MIDI シーケンサーで PODXT を使う場合、MIDI コントローラー・メッセージを使って PODXT パラメーターを自動操作する事ができます。この機能により Pro Tools TDM システムがなくても、プラグインソフトウェアやアンプファームの機能が堪能できます。

PODXT のフロントパネル・ノブは MIDI コントローラー・データを送信します(オプションの FLOOR BOARD フット・コントローラーのワウとボリュームペダルの機能と似ています)。データは PODXT を MIDI シーケンスと同時に再生すると同時に、MIDIトラックに録音されません。PODXT の MIDI OUT を MIDI シーケンサーの MIDI IN に接続します。次にシーケンサーの MIDI OUT を PODXT の MIDI IN に接続し、PODXT とシーケンサーの MIDI チャンネルが同一チャンネルであることを確認します。また TUNER モードの MIDI 出力設定は OUT に設定してください。

MIDI コントローラーによる自動操作を行う為には、PODXT の MIDI OUT から送信されるデータが記録されるよう、シーケンサーの MIDIトラックを設定する必要があります。まず MIDIトラックが PODXT の MIDI OUT 信号を受信するよう設定し、シーケンサーの録音を始めます。シーケンサーの録音中に PODXT の DRIVE ツマミをゆっくりと最大レベルに上げ、その後最低レベルに下げます。次にシーケンサーを STOP させてください。シーケンサーの PODXT MIDIトラックに記録されたデータを見てみましょう。MIDI コントローラー # 13 メッセージが記録されました。これは PODXT の Drive パラメーターに割り当てられたコントローラーです。PODXT を再生すると同時に録音した MIDIトラックを巻き戻してみると、MIDIトラックに録音したドライブ変更を耳で聞くことができます。

MIDI Setup Trouble-shooting : コンピュータでの MIDI 設定時に関するトラブル・シューティングです。

- 1.SoundBlaster タイプのカードを使用する場合、MIDI ドライバより設定が複雑になります。SoundBlaster カードは外部 MIDI ポートではなく、カード内蔵 Synth にドライバーを初期設定しているケースがほとんどです。つまり最初にドライバを指定する必要があります。
- 2.MIDI ケーブルは出力から入力に正しく接続してください (PODXT の MIDI IN をパソコンの MIDI IN に接続したり、PODXT の MIDI IN をパソコンの MIDI OUT に接続しないでください)。情報の流れを考えて接続を行います。例えば、PODXT からパソコンへ、逆にパソコンから PODXT へ、というように接続します。
- 3.MIDI チャンネル同士は同じように設定する必要があります。確実に通信させる為の最も簡単な方法は、PODXT の MIDI チャンネルを全チャンネル対象の OMNI に設定することです。

Putting Your Feet to Work

The FBV Series Foot Controllers : PODXT にはオプションで Line6FBV および FBV ショートボード・フットコントローラーが使用できます。FBV は Line6 の Vetta シリーズ・アンプに必要なフットコントロール機能を全て搭載しており、その中には PODXT で対応していない機能も含まれています。ここでは FBV の PODXT 対応機能について詳述します。

Meet the FBV Shortboard : FBV ショートボード・フットコントローラーは特にライブ・シーンにおける PODXT の操作の幅を広げてくれます。ショートボードのフットスイッチは PODXT の全機能をコントロール可能、フットペダルでは Wah および音量の調節ができます。また Line6 EX-1 エクスプレッション・ペダル専用の入力端子が搭載されています。

Hooking up the Shortboard : ショートボードは接続ケーブル付属の為、PODXT 背面の PEDAL 端子に接続するだけで OK です。代わりにケーブルを使う場合、標準 CAT-5 イーサネット・ケーブルを選んでください。どの店でも手に入ります。ショートボードの電源は接続ケーブル一本を通して供給される為、「wall-wart」や他の外部電源供給装置を使う必要はありません。

Pushing Your Buttons

- 1.Bank Up-Bank Down : PODXT の 16 バンクあるチャンネルメモリーを選択するには、この 2 種類のスイッチを使います。A、B、C、D のいずれかを押すと、チャンネルメモリーがダウンロードされます。ボタンのどちらか一方を押したままにすると、バンクのスクロールができます。
- 2.Channel A, B, C, & D : 現在選択されているバンクのチャンネル・メモリー A~D を選択します。
- 3.FX Loop : ショートボード付属の COMP スティックでラベルを覆ってください。PODXT の COMP の ON/OFF 切替をコントロールできます。
- 4.Stomp : このスイッチで STOMP エフェクトの ON/OFF 切替を行います。スイッチ上の LED が点灯しているときは、エフェクトが ON の状態です。
- 5.Reverb : PODXT のリバース機能の ON/OFF 切替を行います。
- 6.Modulation : このスイッチで MOD エフェクトの ON/OFF 切替を行います。MOD エフェクトが ON の場合、スイッチ上の LED が点灯します。
- 7.Delay : このスイッチで Delay エフェクトの ON/OFF 切替を行います。Delay エフェクトが ON の場合、スイッチ上の LED が点灯します。
- 8.Tap Tempo : PODXT のテンポを設定するには、TAP TEMPO スwitch を 2 回軽くたたいてください。TAP TEMPO 上のライトが点灯し、BPM (一分間にライトがフラッシュする回数) によって現在のテンポを表示します。TUNER を起動させるには、TAP TEMPO スwitch を 2 秒間押してください。ショートボードのディスプレイ上に演奏中の音符が表示され、シャープかフラットかがわかります。
- 9.Wah/Volume Light : ショートボードの内蔵ペダルが Wah もしくは Volume をコントロール可能になると、LED の一つが点灯します。エクスプレッション・ペダルが接続され、Volume をコントロールするよう設定されていると、Volume ライトは点灯しません。
- 10.Wah/Volume Pedal : ペダルを完全に前に踏んでトーン・スイッチを切替え、Wah/Volume コントロール・モードにして下さい。エクスプレッション・ペダルがショートボードのリアパネル・フォ

ン端子に接続され、Wah コントロールに設定されている場合、ショートボード・ペダルのコントロール対象は Wah のみとなります。つまりショートボード・スイッチのトーン・スイッチで Wah を ON/OFF 切り替えします。エクスプレッション・ペダルが EFFECT TWEAK パラメーターをリモート・コントロールするよう設定されている場合、Wah/Volume ペダルが Wah/Volume 間の切り替えスイッチとなります。詳細は 4 章 Creating & Storing Sounds をお読みください。

1. External Pedal Jack：エクスプレッションペダル（Line6 の EX-1 など）を使用したい場合、ショートボード・リアパネルのフォン端子に接続してください。エクスプレッションペダルで操作できるのは Volume か EFFECT TWEAK です。

注意：PODXT が使用中でない FBV スイッチは PODXT の MIDI 出力を通して MIDI 信号を送信し、外部デバイスをコントロールできます。詳細は Appendix C をご覧ください。

Saving and Naming with the FBV Shortboard

保存をする前に、ファクトリー・プリセットを検索し、必要がない余分のプリセットを見極めておくことをお勧めします。余分なプリセットのバンク番号とチャンネル文字をメモしておけば、オリジナル・サウンドの保存場所としてすぐに利用することが出来ます。

1. 保存：FX LOOP (COMP) スイッチを踏み、NAME EDIT をディスプレイ上に表示させてください。
2. 名前を付ける：ショートボードの STOMP および MODULATION スイッチ（小さな字で Cursor とラベルされています）は、チャンネル・ネームの頭文字を選択します。選択されたチャンネルは変更が可能になります。DELAY および REVERB スイッチ（小さな字で Character とラベルされています）によって文字、数字、記号を選び、オリジナル・サウンドに名前を付けます。
3. バンクを選択する：BANK UP/BANK DOWN スイッチで保存先のバンクを選択してください。
4. 仕上げ：新しいサウンドの保存場所を A、B、C、D チャンネルメモリーから選択します。A～D に対応するスイッチのいずれかを押ししてください。ディスプレイに「SAVING」の表示が出ます。これで保存作業は完了です。

注意：FBV ユーザーの方でも、保存方法は上記とほとんど同じです。例外は REVERB および PITCH/TREMOLO スイッチがカーソル・コントロールに、MOD および DELAY スイッチが文字変更に使用される点です。

Using an EX-1

FBV ショートボードはエクスプレッション・ペダルが接続可能です。エクスプレッション・ペダルはボリューム・ペダル・コントロールとして機能したり、EFFECT TWEAK ツマミをリモートコントロールできます。エクスプレッション・ペダルによって例えばロータリー・ドラム・スピードを遠隔操作し、本体のペダルは Wah または Volume のコントロールに割り当て可能です。またこの設定はチャンネルメモリーに保存可能なため、一瞬で設定を呼び出すことが出来ます。ペダルの設定方法は以下の通りです。

1. EDIT ボタンを押し、SELECT を回して Wah/Volume パラメーターを画面に表示させます。



2. PEDAL の下のボタンを押し、VOLUME か TWEAK を選んでください。VOLUME が選択された場合は音量を、TWEAK の場合は EFFECT TWEAK パラメーターがコントロール可能になります。
 3. 変更を保存します。
- PEDAL が EFFECT TWEAK のコントロール用に設定されている場合、EX-1 ペダルをかかと側に

踏むと、パラメーターが最低レベルになります。逆につま先側に踏み込むと、パラメーターは最高レベルになります。PEDAL が VOLUME に設定されている場合、FBV ショートボードの Volume ライトが消えます。PODXT の音量は EX-1 によってコントロールされ、PODXT の内蔵ペダルは Wah 専用ペダルとなります。DELAY や MOD エフェクトと同じく、ボリュームペダルの配置位置は PRE (アンプ・モデルの前) と POST の間で選択可能です。

APPENDIX A: AMP MODELS

Amp Model	Based On	Cab Model	Mic
Tube Preamp	Tube Instrument Preamp	No Cab	U-67
Line 6 Clean	Line 6 21st Century Clean	2x12 Line 6	SM-57 On Axis
Line 6 JTS-45	Line 6 JTS-45	4x12 Celest V30	SM-57 On Axis
Line 6 Class A	Line 6 Class A	1x12 Tweed	MD-421
Line 6 Mood	Line 6 Mood	4x12 Green 20's	SM-57 On Axis
Spinal Puppet	Line 6 Spinal Puppet	4x12 Celest T75	MD-421
Line 6 Chem X	Line 6 Chemical X	4x12 Celest T75	MD-421
Line 6 Insane	Way too many hours of shredding	4x12 Celest T75	MD-421
Line 6 ACO 2	Line 6 Piezocoustic 2	No Cab	U-67
Zen Master	Budda Twinmaster 2x12 Combo	2x12 Line 6	SM-57 On Axis
Small Tweed	'53 Fender Deluxe	1x12 Tweed	MD-421
Tweed B-Man	'58 Fender Bassman	4x10 Tweed	SM-57 On Axis
Tiny Tweed	'60 Tweed Fender Champ	1x8 Tweed	U-67
Blackface Lux	'64 Fender Deluxe	1x12 Blackface	SM-57 On Axis
Double Verb	'65 Blackface Fender Twin	2x12 Blackface	SM-57 Off Axis
Two-Tone	Gretsch 6156	1x10 G-Brand	SM-57 On Axis
Hiway 100	Hiwatt DR-103	4x12 Green 25's	SM-57 Off Axis
Plexi 45	'65 Marshall JTM-45	4x12 Green 20's	SM-57 Off Axis
Plexi Lead 100	'68 Marshall 'Plexi' Super Lead	4x12 Green 20's	SM-57 On Axis
Plexi Jump Lead	'68 Marshall Super Lead Jumped	4x12 Green 25's	MD-421
Plexi Variac	'68 Marshall Super Lead Variac'd	4x12 Green 25's	U-67
Brit J-800	'90 Marshall JCM-800	4x12 Celest T-75	MD-421
Brit JM Pre	Marshall JMP-1	4x12 Celest T-75	MD-421
Match Chief	'96 Matchless Chieftain	2x12 Match	SM-57 On Axis
Match D-30	Matchless DC-30	2x12 Match	SM-57 On Axis
Recto Dual	'01 Mesa Boogie Dual Rectifier	4x12 Recto	SM-57 Off Axis
Cali Crunch	'85 Mesa Boogie Mark IIc+	1x12 Line 6	SM-57 On Axis
Jazz Clean	'87 Roland JC-120	2x12 Jazz	U-67
Solo 100	Soldano SLO-100 Head	4x12 Celest T-75	SM-57 On Axis
Super O	Supro S6616	1x6 Super O	SM-57 On Axis
Class A-15	'60 Vox AC 15	1x12 Class A	SM-57 Off Axis
Class A-30 TB	'63 Vox AC 30 with Top Boost	2x12 Class A	SM-57 On Axis

APPENDIX B: MIDI PROGRAM CHANGES

PODXT channels can be selected via MIDI program changes. Some devices number programs starting at zero. Some start at one. We start at zero (Manual Mode) and then work our way along through the stored channels as shown in this table:

POD Channel	MIDI Program Changes	POD Channel	MIDI Program Changes	PODxt Channel	MIDI Program Changes	PODxt Channel	MIDI Program Changes
Manual	0	5A	17	9B	34	13C	51
1A	1	5B	18	9C	35	13D	52
1B	2	5C	19	9D	36	14A	53
1C	3	5D	20	10A	37	14B	54
1D	4	6A	21	10B	38	14C	55
2A	5	6B	22	10C	39	14D	56
2B	6	6C	23	10D	40	15A	57
2C	7	6D	24	11A	41	15B	58
2D	8	7A	25	11B	42	15C	59
3A	9	7B	26	11C	43	15D	60
3B	10	7C	27	11D	44	16A	61
3C	11	7D	28	12A	45	16B	62
3D	12	8A	29	12B	46	16C	63
4A	13	8B	30	12C	47	16D	64
4B	14	8C	31	12D	48	Tuner	65
4C	15	8D	32	13A	49		
4D	16	9A	33	13B	50		

APPENDIX C: PODXT MIDI CONTROLS

Parameters	Notes	Cntrl #	Transmitted MIDI Range	Received MIDI Range
AMP Settings				
Amp Model	Selects Amp Model	11	0-32	0-32
Drive		13	0-127	0-127
Bass		14	0-127	0-127
Mid		15	0-127	0-127
Treble		16	0-127	0-127
Presence		21	0-127	0-127
ChanVol		17	0-127	0-127
Pan	0=Left, 64=Center, 127=Right	10	No Transmit	0-64
A.I.R. Settings				
Cabinet Model	0-22	71	0-22	0-22
Mic Selection	0=Shure SM-57, 1=Shure SM-57 Off Axis, 2=MD-421, 3=U-67	70	0-3	0-3
Room Level	0-100%	76	0-127	0-127
COMPRESSOR				
Compression Gain	0 to +31dB	5	0-127	0-127
Compression Threshold	-63dB<>0dB	9	0-126	0-127
Comp Enable	On, Off	26	Off=0/On=127	0-63=Off 64-127=On
NOISE GATE				
Gate Threshold	0 to -96dB	23	0-96	0-96
Gate Decay Time	0=.1msecs; 127=3000msecs	24	0-127	0-127
Noise Gate Enable	On, Off	22	Off=0/On=127	0-63=Off 64-127=On
STOMP Category (STOMP Parameters May Vary)				
Effects				
STOMP Model	0=Facial Fuzz, 1=Fuzz Pi, 2=Screamer, 3=Classic Dist, 4=Octave Fuzz, 5=Blue Comp, 6=Red Comp, 7=Vetta Comp, 8=Auto Swell, 9=Auto Wah	75	0-9	0-9
STOMP Param 1	Not Used	27	0-127	0-127

Parameters	Notes	Cntrl #	Transmitted MIDI Range	Received MIDI Range
STOMP Param 1 Note value	Not Used	78	See Note 1	See Note 1
STOMP Param 2	Model dependant	79	0-127	0-127
STOMP Param 3	Model dependant	80	0-127	0-127
STOMP Param 4	Model dependant	81	0-127	0-127
STOMP Param 5	Not Used	82	0-127	0-127
STOMP Volume/Mix	0 <> 100%	83	0-127	0-127
Stomp Enable	On, Off	25	Off=0/On=127	0-63=Off 64-127=On
MOD Category (MOD Parameters May Vary)				
Effects				
Modulation Model	0=Sine Chorus, 1=Analog Chorus, 2=Line 6 Flanger, 3=Jet Ranger, 4=Phaser, 5=U-Vibe, 6=Opto Trem, 7=Bias Trem, 8=Rotary Drum+Horn, 9=Rotary Drum, 10=Auto Pan	58	0-10	0-10
Mod Param 1	Model dependant	29	0-127	0-127
Mod Param 1 Double Precision	Model dependant	61	0-127	0-127
Mod Param 1 Note value	Model dependant	51	See Note 1	See Note 1
Mod Param 2	Model dependant	52	0-127	0-127
Mod Param 3	Model dependant	53	0-127	0-127
Mod Param 4	Model dependant	54	0-127	0-127
Mod Param 5	Model dependant	55	0-127	0-127
Mod Volume/Mix	0 <> 100%	56	0-127	0-127
Mod Pre/Post	Pre, Post	57	Pre=0/Post=127	0-63=Pre 64-127=Post
Mod Enable	On, Off	50	Off=0/On=127	0-63=Off 64-127=On
DELAY Category (Delay Parameters May Vary)				
Effects				
Delay Model	0=Analog, 1=Analog w/Mod, 2=Tube Echo, 3=Multi-Head, 4=Sweep Echo, 5=Digital Delay, 6=Stereo Delay, 7=Ping Pong, 8=Reverse Delay	88	0-8	0-8

Parameters	Notes	Cntrl #	Transmitted MIDI Range	Received MIDI Range
Deby Param 1		30	0-127	0-127
Deby Param 1 DBL Precision		62	0-127	0-127
Deby Param 1 Note value		31	See Note 1	See Note 1
Deby Param 2	Model dependant	33	0-127	0-127
Deby Param 3	Model dependant	35	0-127	0-127
Deby Param 4	Model dependant	85	0-127	0-127
Deby Param 5	Model dependant	86	0-127	0-127
Deby Volume/Mix	0<>100%	34	0-127	0-127
Deby Pre/Post	Pre, Post	87	Pre=0/Post=127	0-63=Pre 64-127=Post
Deby Enable	On, Off	28	Off=0/On=127	0-63=Off 64-127=On
REVERB Category Effects				
Reverb Type	0=Lux Spring, 1=Std Spring, 2=King Spring, 3=Small Room, 4=Tiled Room, 5=Brick Room, 6=Dark Hall, 7=Medium Hall, 8=Largo Hall, 9=Rich Chamber, 10=Chamber, 11=Cavernous, 12=Slap Plate, 13=Vintage Plate, 14=Large Plate	37	0-15	0-15
Reverb Decay	0.1<>9.0sec	38	0-127	0-127
Reverb Pre-Delay	0<>100ms	40	0-127	0-127
Reverb Tone	0<>100%	39	0-127	0-127
Reverb Mix	0<>50%	18	0-127	0-127
Reverb Pre/Post	Pre, Post	41	No Transmit	0-63=Pre 64-127=Post
Reverb Enable	On, Off	36	Off=0/On=127	0-63=Off 64-127=On
WAH WAH				
Wah Position	0<>127	4	0-127	0-127
Wah Enable	On, Off	43	Off=0/On=127	0-63=Off 64-127=On
Volume Pedal				
Vol Pedal	Value Not Stored	7	0-127	0-127
Minimum Position		46	0-127	0-127

Parameters	Notes	Cntrl #	Transmitted MIDI Range	Received MIDI Range
Volume Pre/Post	Pre, Post	47	Pre=0/Post=127	0-63=Pre 64-127=Post
Wah Enable	On, Off	43	Off=0/On=127	0-63=Off 64-127=On
TEMPO Settings				
Tempo MSB	30.0-240.0 BPM	89	0-127	0-127
Tempo LSB		90	0-127	0-127
Tap	Tap	64	Tap Button or FBV sends 127	64-127=a Tap
Tweak	Tweak Controller	1	0-127	0-127
EFFECTS Setups				
Effect Setup	EFFECTS knob	19	0-63	0-63
Tweak Param Select		108	0-13	0-13

Note 1:

Note Value Controller Values

- 1 = Whole Note
- 2 = Dotted Half Note
- 3 = Half Note
- 4 = Half Note Triplet
- 5 = Dotted Quarter Note
- 6 = Quarter Note
- 7 = Quarter Note Triplet
- 8 = Dotted Eighth Note
- 9 = Eighth Note
- 10 = Eighth Note Triplet
- 11 = Dotted Sixteenth Note
- 12 = Sixteenth Note
- 13 = Sixteenth Note Triplet

APPENDIX D: FBV SERIES MIDI CONTROLS

Parameters	Notes	Controller #	Transmitted MIDI Range
Comp	On, Off (FX Loop on FBV)	26	Off=0/On=127
Stomp	On, Off (Stomp Box 1 on FBV)	25	Off=0/On=127
Modulation	On, Off	50	Off=0/On=127
Delay	On, Off	28	Off=0/On=127
Reverb	On, Off	36	Off=0/On=127
Tap	Tap (momentary)	64	Off=0/On=127
Wah/Volume Pedal	Wah or Volume set by PODXT (Individual Pedals on FBV)	4 = Wah 7 = Volume	0-127
Expression Pedal (optional)	Tweak or Volume set by PODXT	1 = Tweak 7 = Volume	0-127
Pedal 1	Realtime Controller (not available on Shortboard)	1	0-127
Pedal 2	Realtime Controller (not available on Shortboard)	2	0-127
Stomp Box 2	On, Off (not available on Shortboard)	109	Off=0/On=127
Stomp Box 3	On, Off (not available on Shortboard)	110	Off=0/On=127
Amp 1	On, Off (not available on Shortboard)	111	Off=0/On=127
Amp 2	On, Off (not available on Shortboard)	112	Off=0/On=127
Pitch/Tremolo	On, Off (not available on Shortboard)	113	Off=0/On=127